

研究者による科学コミュニケーション活動
に関するアンケート調査報告書

平成 25 年 7 月

独立行政法人 科学技術振興機構
科学コミュニケーションセンター

目次

I. 概要	1
1. 調査の概要	2
1-1 目的	2
1-2 方法	2
1-2-1 対象者	2
1-2-2 方法と期間、回収数	2
2. 結果の概要	3
2-1 科学コミュニケーションの経験	3
2-2 活動の内容	3
2-3 活動のきっかけ	3
2-4 活動の目的	3
2-5 達成したこと（経験者）、達成したいこと（未経験者）	4
2-6 障壁について	4
2-7 支援について	4
2-8 支援体制（部署または人材）について	5
2-9 希望する研修について	5
2-10 第4期科学技術基本計画の施策が研究者による科学コミュニケーション活動へ与えた影響について	5
3. 考察	6
3-1 現状	6
3-2 目的	6
3-3 達成	6
3-4 障壁	7
3-5 支援	7
3-5-1 「人的な支援体制」について	7
3-5-2 「必要経費の補助」について	8
3-5-3 「実践の機会や場所の提供・紹介」について	8
3-5-4 「業績として評価されない」ことについて	8
3-6 研修	8
3-7 まとめ	8
4. 謝辞	9
5. 調査実施体制	9

II. アンケート結果	10
1. 回答者の属性	11
2. 結果	15
2-1 科学コミュニケーション活動の実態	15
2-2 科学コミュニケーション活動を行ううえでの障壁	28
2-3 科学コミュニケーション促進のための支援	36
2-4 政府方針が研究者による科学コミュニケーションへ与えた影響	57
図表一覧	61

I. 概要

1. 調査の概要

1-1 目的

独立行政法人科学技術振興機構（以下、「JST」という。）の科学コミュニケーションセンター（センター長 毛利衛）では、第4期科学技術基本計画（平成23年8月19日閣議決定）を受けて、時宜にかなった施策の実施と、より長期的な視点に立った戦略的な事業推進をはかるため、事業の一つとして調査研究をおこなっている。

同基本計画により、「一定額以上の国の研究資金を得た研究者に対し、研究活動の内容や成果について国民との対話を行う活動を積極的に行うよう求める」とする施策が示された。また、東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故を受け、科学技術を担う専門家のありかたが改めて問い直されている。

本アンケート調査は、このような社会的状況の中で、研究者による科学コミュニケーション¹活動の実態や課題、科学コミュニケーション活動の促進のために要請される支援を明らかにすることを目的として、科学コミュニケーションセンターの大学・研究機関等における研究者等の科学コミュニケーションを課題とする調査研究ユニット（JSTフェロー/大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所 准教授 小泉周）により、実施された。

なお、平成22年度に、JST 広聴活動2010「科学技術と社会との対話」にて、研究者のアウトリーチ活動に関する同様の調査が実施された。本調査を設計するにあたって、この調査結果を参考とした。

1-2 方法

1-2-1 対象者

本アンケート調査は、JSTが運営するRead&Researchmap（22万件におよぶ日本の研究者情報をデータベース化した国内最大の研究者総覧）に登録された122,164件のメールアドレスに送信した。

1-2-2 方法と期間、回収数

アンケートの期間は3月8日から16日で、回収数は8,964（7.3%）、有効回答数は7,908（6.5%）あった。

¹ 研究者（専門家）と研究者以外の人々が、科学技術やその社会的課題についての情報や意見を双方向的にやり取りし、より大きな社会の問題として共有していくことを目指す活動を指す。したがって、学術分野としては理農工医歯薬学に限らず人文・社会科学も含み、活動形態としては、アウトリーチから政策への参与等までを広く含む。

2. 結果の概要

2-1 科学コミュニケーションの経験 (p. 15 図 8 参照)

科学コミュニケーション活動の経験のある人（以下、「経験者」という。）は、回収数の 64.4% (5,769 人) で、活動経験のない人（以下、「未経験者」という。）は 35.6% (3,195 人) であった。

2-2 活動の内容 (p. 17 図 10 参照)

科学コミュニケーション活動の経験者の代表的な活動内容は、「一般むけの公開講座・講演会・シンポジウム・セミナー (77.4%)」、「研究室・施設の一般公開・オープンキャンパス (66.0%)」、「小中高等学校での出前授業、講演会 (52.0%)」であった。「タウンミーティング・市民会議・市民陪審等への情報提供・参加」は 9.4%、「市民との協働調査・研究」は、8.9%であった。

2-3 活動のきっかけ (p. 17 表 2、p. 18 図 11 参照)

科学コミュニケーション活動を行ったきっかけについては、「依頼があったので始めた（業務以外での依頼）(80.7%)」の回答率（以下、「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合をいう。）が最も高く、次いで「研究に付随する業務・義務として始めた (75.5%)」が高かった。「自主的な活動として始めた (55.6%)」はその次に高かった。

2-4 活動の目的 (p. 19~20 表 3、p. 21~p. 24 図 12 参照)

科学コミュニケーション活動の目的については、経験者も未経験者も、「そもそも研究者の役割として、研究の経緯や成果を社会に公開するため（経験者 89.0%、未経験者 90.1%)」、「科学技術や学術への興味を喚起するため（経験者 86.8%、未経験者 84.1%)」、「研究者の義務として、研究者の能力を社会的課題の解決に役立てるため（経験者 82.0%、未経験者 82.0%)」に対する回答率が 8 割を超えた。「子どもの科学離れを防ぐため（経験者 53.5%、未経験者 53.3%)」に対する回答率は、約 5 割にとどまった。

活動経験の有無で比較すると、「専門家以外の人々の知識水準をあげるため（経験者 62.9%、未経験者 53.0%)」、「専門家以外の人々と対話をすることが楽しいため（経験者 57.9%、未経験者 45.6%)」といった目的については、経験者のほうが未経験者よりも回答率が高かった。

その他、「獲得した研究資金や所属機関等の義務として、資金提供元への説明責任を果たすため（経験者 70.2%、未経験者 82.3%)」や「納税者への説明責任を果たすため（経験者 57.7%、未経験者 64.9%)」などの目的については、未経験者のほうが、経験者より回答率が高かった。

2-5 達成したこと（経験者）、達成したいこと（未経験者）（p. 25 表 4、p. 26～p. 27 図 13 参照）

経験者の科学コミュニケーション活動によって達成したことについては、「自分の伝えなかったことが伝わった(86.1%)」の回答率が最も高く、「相手が伝えなかったことを理解できた(69.2%)」、「考えや思いを共有できた(67.5%)」、「新しい知見や気づきが得られた(67.5%)」がそれに次いだ。

未経験者の科学コミュニケーション活動を行う場合達成したいことは、「新しい知見や気づきが得られた(84.1%)」、「自分の伝えなかったことが伝わった(82.1%)」の回答率が順に高かった。

活動経験の有無で比較すると、「社会的課題の解決につながった(経験者 35.6%、未経験者 68.7%)」の回答率は、経験者と比べて、未経験者が著しく高かった。

2-6 障壁について（p. 28～p. 29 表 5、p. 30～33 図 14、p. 34 図 15、p. 35 図 16 参照）

科学コミュニケーション活動を行ううえでの障壁については、経験者・未経験者によらず、「時間的余裕がない(経験者 82.9%、未経験者 86.2%)」の回答率が最も高く、「活動に必要な事務的な作業が多い(経験者 74.5%、未経験者 85.8%)」が次いで高かった。経験者では、これに続いて、「業績として評価されない(51.2%)」、「費用の捻出が難しい(49.9%)」の順に高かった。未経験者の場合は、「費用の捻出が難しい(68.6%)」、「コミュニケーション活動を行うための場をつくるのが難しい(64.0%)」の回答率が次いで高かった。

ほとんどの項目について、経験者より未経験者の方が回答率が高かったが、「業績として評価されない(経験者 51.2%、未経験者 49.5%)」については、経験の有無で有意な差が見られなかった。

2-7 支援について（p. 36～p. 37 表 6、p. 38～p. 40 図 17、p. 41 図 18、p. 42 図 19 参照）

科学コミュニケーション活動を促進するための支援については、活動経験の有無に関わらず、「人的な支援体制(経験者 84.2%、未経験者 87.2%)」、「必要経費の補助(経験者 83.1%、未経験者 85.8%)」、「実践の機会や場所の提供・紹介(経験者 67.7%、未経験者 77.7%)」の回答率が高かった。

経験者の場合、「来場者からの直接的評価(61.3%)」、「論文に相当するような業績としての評価(59.1%)」の回答率がこれらに次いで高く、未経験者の場合は、「活動事例を紹介するデータベース・書籍・マニュアル等(64.5%)」、「活動の成果やノウハウを発表し、共有するイベントや勉強会等(64.4%)」、「論文に相当するような業績としての評価(63.9%)」の回答率がこれらに次いで高かった。

2-8 支援体制（部署または人材）について（p. 43 図 20、図 21、p. 44 図 22、p. 45 図 23、p. 46 図 24 参照）

科学コミュニケーション活動を支援する体制（部署または人材）があると回答した人は42.3%であり、ないと回答した人は57.7%であった。あると回答した人について、具体的な担い手は、「学生(84.5%)」が最も高く、次いで「科学コミュニケーション専門部門系職員(76.2%)」が高かった。

その業務内容は、「実施にあたって発生する事務(72.9%)」、次いで、「実施にあたっての当日の運営・設営(60.1%)」、「外部との交渉(60.0%)」、「活動の企画(57.0%)」が代表的なものであった。

また、その活動資金源については、「大学・研究機関(65.9%)」と回答した割合が最も高かった。

2-9 受講したい研修について（p. 47～p. 49 表 7、p. 50 図 25、p. 51 図 26、p. 52～56 図 27 参照）

経験者の場合は、どの項目の回答率も5割を超えていないのに対して、未経験者の場合は、「一般むけ公開講座・講演会・シンポジウム・セミナー(65.7%)」、「サイエンスカフェ、ワークショップ等の参加型対話イベント(56.5%)」、「小中高等学校での出前授業、講演会(53.2%)」、「科学館・博物館等の活動への協力(52.2%)」、「一般向け書籍の執筆・ソフトウェアの作成(51.7%)」、「研究室・施設の一般公開・オープンキャンパス(51.4%)」の6項目について回答率は5割以上であった。

2-10 第4期科学技術基本計画の施策が研究者による科学コミュニケーション活動へ与えた影響について（p. 57 表 8、図 28、p. 58 表 9、表 10、p. 59 図 29、図 30、p. 60 表 11、図 31 参照）

「一定額以上の国の研究資金を得た研究者に対し、研究活動の内容や成果について国民との対話を行う活動を積極的に行うよう求める」（第4期科学技術基本計画）という施策を「知っている」、「やや知っている」と回答した人は45.6%、「知らない」、「あまり知らない」と回答した人は、49.3%だった。なお、自分名義で受けている年間研究助成費の総額が高いほど、上記施策を「知っている」、「やや知っている」と回答した。

また、この施策に「賛成である」、「やや賛成である」と回答した人は70.9%に上り、「賛成ではない」、「あまり賛成ではない」と回答した10.8%を大きく上回った。

この施策によって以前よりも科学コミュニケーション活動を行うようになったかという質問については、「どちらでもない」という回答が65.6%と半数以上を占めた。

研究者による科学コミュニケーション活動が自発的な活動として「根付いて来ている」「やや根付いて来ている」と回答した人は28.1%にとどまった。

3. 考察

3-1 現状

科学コミュニケーション活動の経験がある研究者は6割（64.4%）を超えた。また、「一定額以上の国の研究資金を得た研究者に対し、研究活動の内容や成果について国民との対話を行う活動を積極的に行うよう求める」（第4期科学技術基本計画）という施策に「賛成である」「やや賛成である」と回答した割合は70.9%に上った。科学コミュニケーション活動は、研究者の活動として一般的に行われていると考えられる。

また、「一般むけの公開講座・講演会・シンポジウム・セミナー（77.4%）」などの代表的な理解増進活動から、「市民との協働調査・研究（8.9%）」など双方向的な活動まで、多様な科学コミュニケーション活動が行われていることがわかった。

他方で、研究者による科学コミュニケーション活動が自発的な活動として「根付いて来ている」「やや根付いて来ている」と回答した人は28.1%にとどまり、科学コミュニケーション活動が研究者の自発的な活動としては根付いていないことが明らかとなった。

3-2 目的

研究者による科学コミュニケーション活動の目的として、経験の有無に関わらず、「そもそも研究者の役割として、研究の経緯や成果を社会に公開するため（経験者 89.0%、未経験者 90.1%）」、「科学技術や学術への興味を喚起するため（経験者 86.8%、未経験者 84.1%）」、「研究者の義務として、研究者の能力を社会的課題の解決に役立てるため（経験者 82.0%、未経験者 82.0%）」という回答率が8割を超え、科学コミュニケーション活動が研究者の社会的責任として意識されていることが示唆された。

その一方で、「自分の研究分野に対する自身の多面的理解を深めるため（経験者 67.3%、未経験者 70.0%）」の回答率が6割を超えていたため、自身の研究活動を普段と異なる視点で捉え直し、より深い理解を得られると考えていることが示唆された。これは、科学コミュニケーション活動を通じて、自らの研究分野を俯瞰すること、また、異なる専門家や一般市民といった他者からの視点が得られることが、多面的な理解につながった結果であると考えられる。

3-3 達成

経験者が科学コミュニケーション活動によって達成したことについては、「自分の伝えたかったことが伝わった（86.1%）」、「相手が伝えたかったことを理解できた（69.2%）」、「考えや思いを共有できた（67.5%）」、「新しい知見や気づきが得られた（67.5%）」、「社会的課題の解決につながった（35.6%）」の順に回答率が高い。このことは、いわゆる理解増進活動から、双方向性の高い市民参加型の活動へとひろがりを見せる科学コミュニケーション

活動の現状とも重なるものと考えられる。

「社会的課題の解決につながった（経験者 35.6%、未経験者 68.7%）」の回答率は、経験者と比べて、未経験者の方が著しく高かった。

3-4 障壁

「時間的余裕がない（経験者 82.9%、未経験者 86.2%）」、「活動に必要な事務的な作業が多い（経験者 74.5%、未経験者 85.8%）」、「業績として評価されない（経験者 51.2%、未経験者 49.5%）」、「費用の捻出が難しい（経験者 49.9%、未経験者 68.6%）」、「コミュニケーション活動を行うための場をつくるのが難しい（経験者 42.2%、未経験者 64.0%）」が科学コミュニケーション活動を行う際に主な障壁となっていることが明らかになった。

これらの障壁を取り除くことにより、研究者による科学コミュニケーション活動が一層推進されることが期待される。

3-5 支援

科学コミュニケーションを促進するための支援については、障壁として挙げられた項目と対応するものとしては、「人的な支援体制（経験者 84.2%、未経験者 87.2%）」、「必要経費の補助（経験者 83.1%、未経験者 85.8%）」、「実践の機会や場所の提供・紹介（経験者 67.7%、未経験者 77.7%）」、「論文に相当するような業績としての評価（経験者 59.1%、未経験者 63.9%）」が求められていることが明らかになった。

さらに、経験者の場合、「来場者からの直接的評価（経験者 61.3%、未経験者 55.3%）」の回答率が高く、未経験者の場合は、「活動事例を紹介するデータベース・書籍・マニュアル等（経験者 54.1%、未経験者 64.5%）」、「活動の成果やノウハウを発表し、共有するイベントや勉強会等（経験者 51.3%、未経験者 64.4%）」の回答率が高いという違いが見られた。したがって、活動経験の有無に応じた支援策も考える必要がある。

3-5-1 「人的な支援体制」について

経験者が所属する組織には、科学コミュニケーション活動を支援する体制（部署または人材）が半数の割合で存在し（51.2%）、未経験者の組織には、そのような体制が少ない（23.6%）ことが分かった。

科学コミュニケーション専門部門系職員など、適切な人的支援体制を構築し、「実施にあたって発生する事務（72.9%）」、「実施にあたっての当日の運営・設営（60.1%）」、「外部との交渉（60.0%）」、「活動の企画（57.0%）」などの多様な支援を行うことが必要であると考えられる。

3-5-2 「必要経費の補助」について

支援体制がある場合、活動の資金源が「大学・研究機関」であることが多かった(65.9%)。「費用の捻出が難しい」という障壁を取り除くためには、「競争的資金(研究費の一部)(23.7%)」、「企業寄付(10.1%)」、「参加者から(14.5%)」などの多様な資金を科学コミュニケーション活動のために確保することが必要であると考えられる。

3-5-3 「実践の機会や場所の提供・紹介」について

科学コミュニケーション専門部門系職員などによる活動の企画に加え、科学館とのイベントや展示物の開発、地域の自治体と連携したサイエンスフェスティバルや市民講座などの企画・参加、地域の小中高等学校における出前授業や研究指導などの実践の機会に関する情報を提供・紹介する仕組みを構築する必要があると考えられる。

3-5-4 「業績として評価されない」ことについて

「業績として評価されない(経験者 51.2%、未経験者 49.5%)」という項目は、障壁の中で唯一、活動経験の有無による有意差がなく、研究者の一般的な傾向であることが示唆される。科学コミュニケーション活動が自発的な活動として根付くためには、科学コミュニケーション活動を業績として評価するための論文指標以外の仕組みを確立させることが不可欠であると考えられる。

3-6 研修

未経験者の5割以上が、「一般むけ公開講座・講演会・シンポジウム・セミナー(65.7%)」、「サイエンスカフェ、ワークショップ等の参加型対話イベント(56.5%)」、「小中高等学校での出前授業、講演会(53.2%)」、「科学館・博物館等の活動への協力(52.2%)」、「一般向け書籍の執筆・ソフトウェアの作成(51.7%)」、「研究室・施設の一般公開・オープンキャンパス(51.4%)」に関する研修を希望した。

他方、経験者の場合は、5割を超えた項目はなかった。その中では、「社会的課題や制度、法律等に関する知識(46.2%)」に関する研修のニーズが未経験者では8位であったのに対して、経験者では2位であった点が特徴的であった。

以上より、未経験者に対しては、代表的な科学コミュニケーション活動に関する一般的な研修を用意し、経験者に対しては、活動の内容や問題意識に応じて多様なメニューを用意するなど、ニーズに応じた研修を開発・実施することが必要であると考えられる。

3-7 まとめ

本調査により、研究者による科学コミュニケーション活動は一般的に行われるようになったが、自発的な活動としては根付いていないことが明らかになった。

その背後には、「時間的余裕がない（経験者 82.9%、未経験者 86.2%）」、「活動に必要な事務的な作業が多い（経験者 74.5%、未経験者 85.8%）」、「業績として評価されない（経験者 51.2%、未経験者 49.5%）」、「費用の捻出が難しい（経験者 49.9%、未経験者 68.6%）」、「コミュニケーション活動を行うための場をつくるのが難しい（経験者 42.2%、未経験者 64.0%）」といった障壁があった。

研究者の事務的な負担を軽減したり、科学コミュニケーション活動を業績として評価するなど適切な施策を講ずることにより、研究者による自発的な科学コミュニケーション活動を社会に根付かせることができると考えられる。

4. 謝辞

アンケートにご協力いただいた研究者の方々に心より御礼申し上げます。

5. 調査実施体制

本アンケートは、JST 科学コミュニケーションセンターの課題研究「大学・研究機関等における研究者等の科学コミュニケーションの実践的研究」の一環として実施された。

（企画・設計・実施）

小泉 周 JST 科学コミュニケーションセンターフェロー

（大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所 准教授）

※以下、五十音順

上野伸子 JST 科学コミュニケーションセンター 企画・研究担当 調査員

角林元子 JST 科学コミュニケーションセンター 企画・研究担当 調査員

川本思心 北海道大学高等教育推進機構

科学技術コミュニケーション教育研究部門（CoSTEP） 特任講師

栗本達児 JST 科学コミュニケーションセンター 企画・研究担当 主査

白根純人 JST 科学コミュニケーションセンター 企画・研究担当 主査

関谷 翔 JST 科学コミュニケーションセンター アソシエイトフェロー

竹下陽子 日本科学未来館 科学コミュニケーター

藤田尚史 JST 科学コミュニケーションセンター 企画・研究担当 調査役

森田由子 日本科学未来館 科学コミュニケーション専門主任

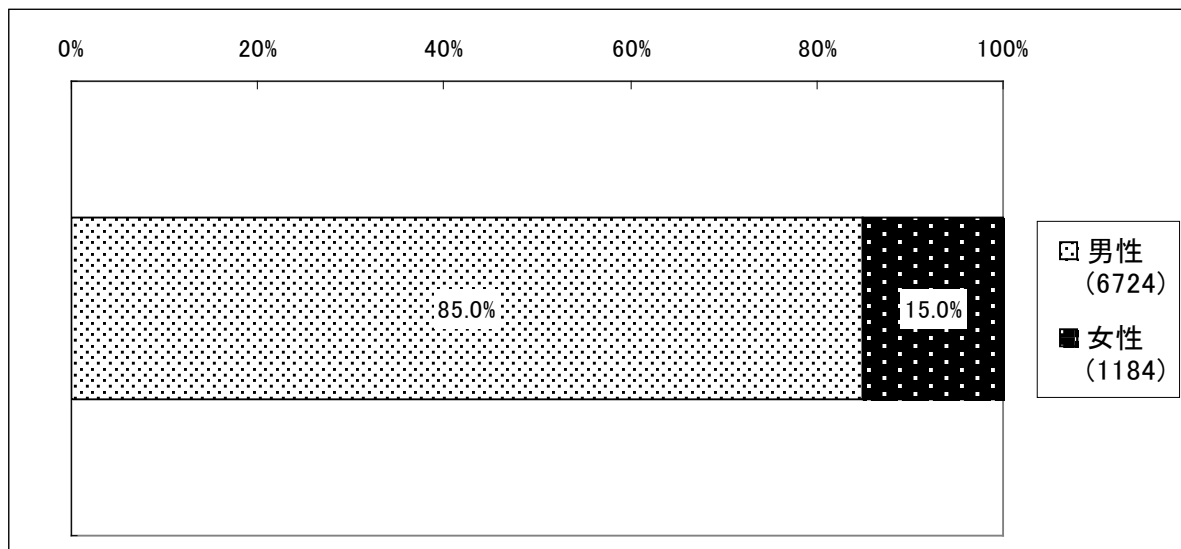
II. アンケート結果

1. 回答者の属性

アンケート回答者（N=7,908）の属性は、以下のグラフが示すとおりである。

○ 性別

図 1 回答者の性別の割合

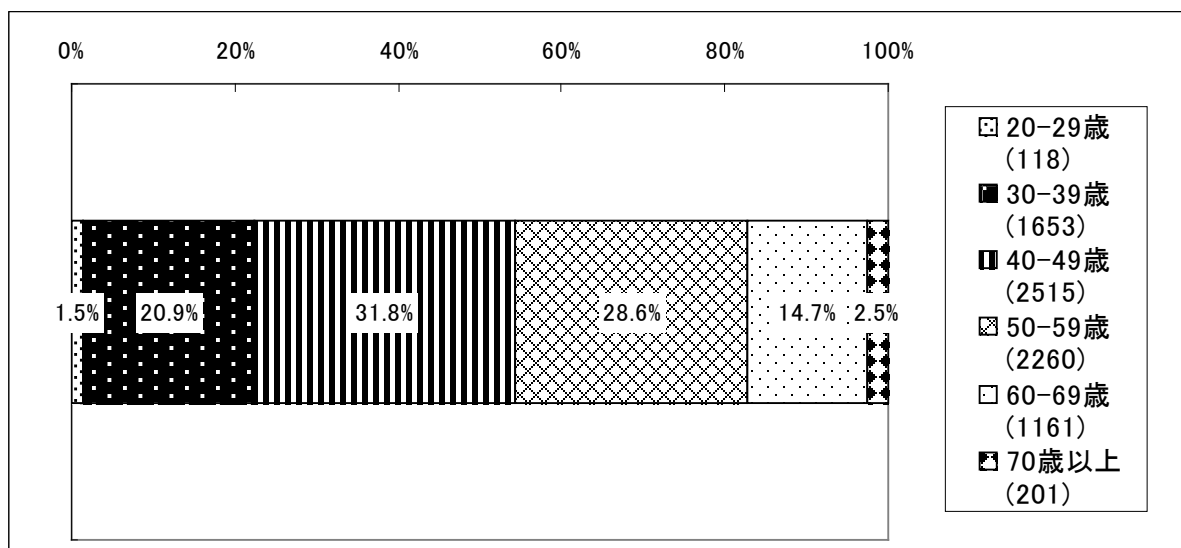


() : 度数

N=7,908

○ 年齢

図 2 年齢別割合

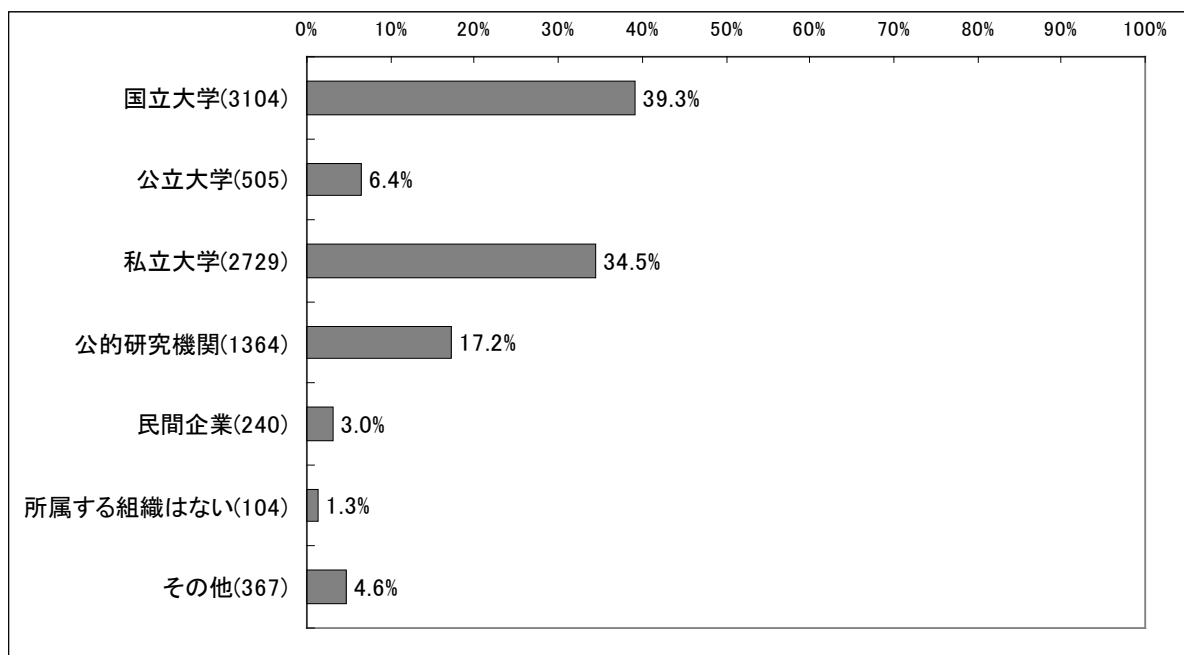


() : 度数

N=7,908

○ 所属する組織の形態（複数回答）

図 3 所属する組織（複数回答）

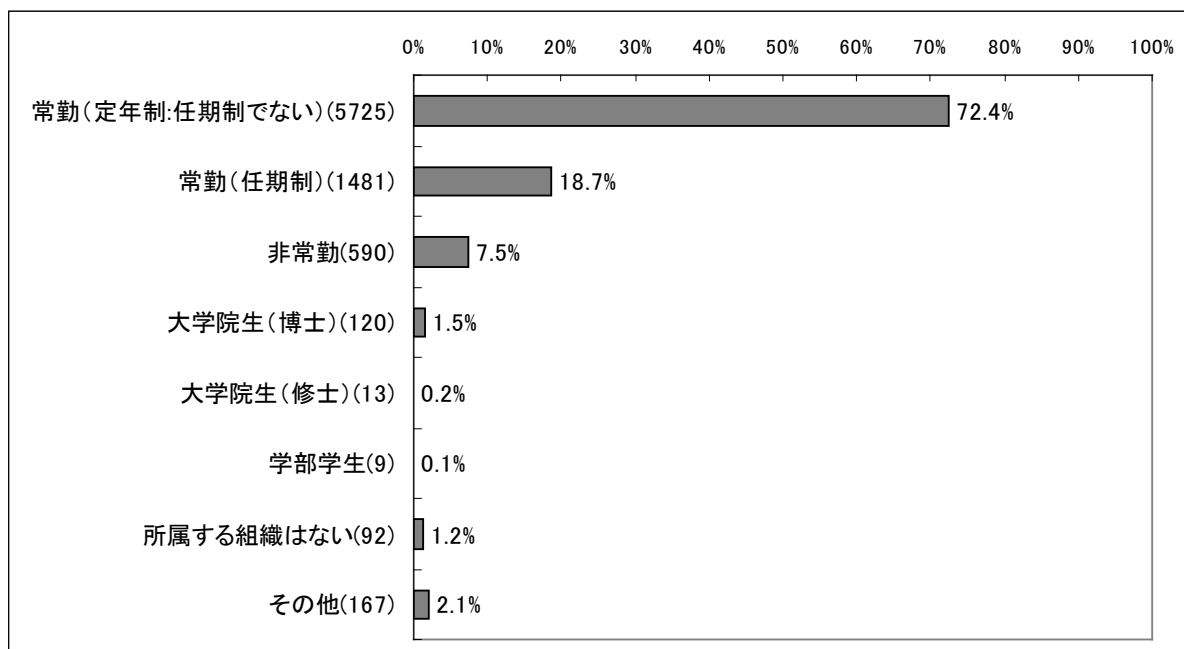


() : 度数

N=7,908

○ 雇用の形態（複数回答）

図 4 雇用の形態（複数回答）

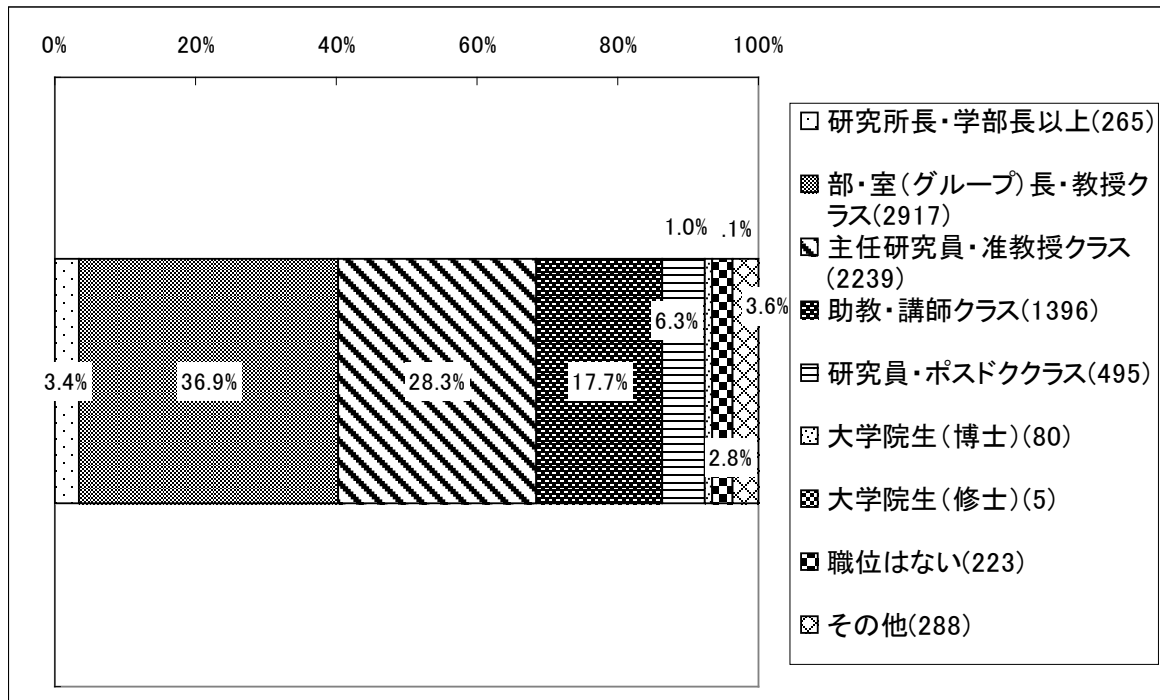


() : 度数

N=7,908

○ 職位

図 5 職位

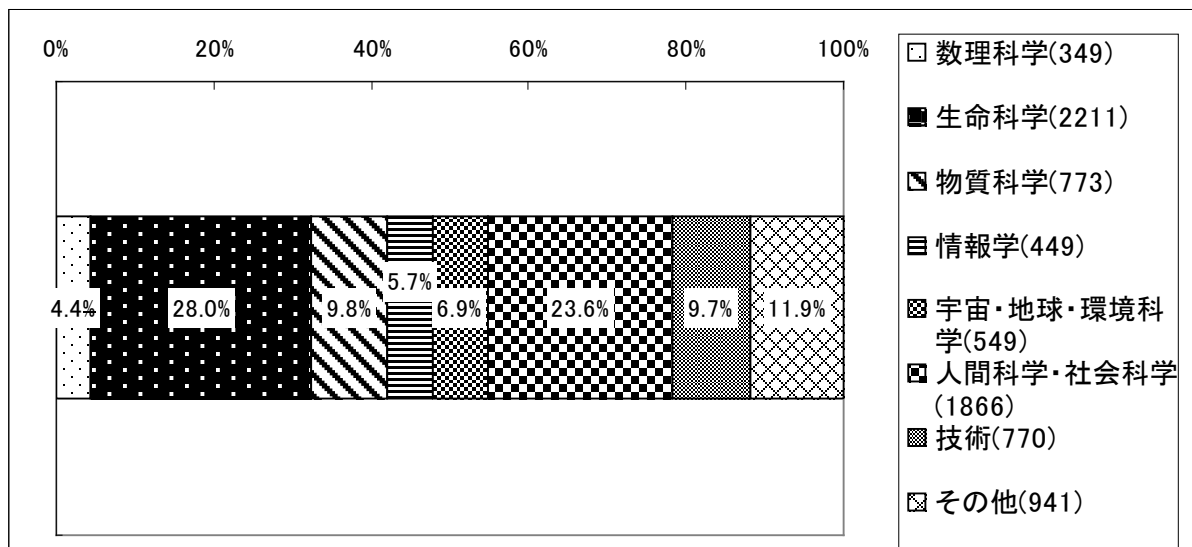


() : 度数

N=7, 908

○ 専門分野

図 6 専門分野

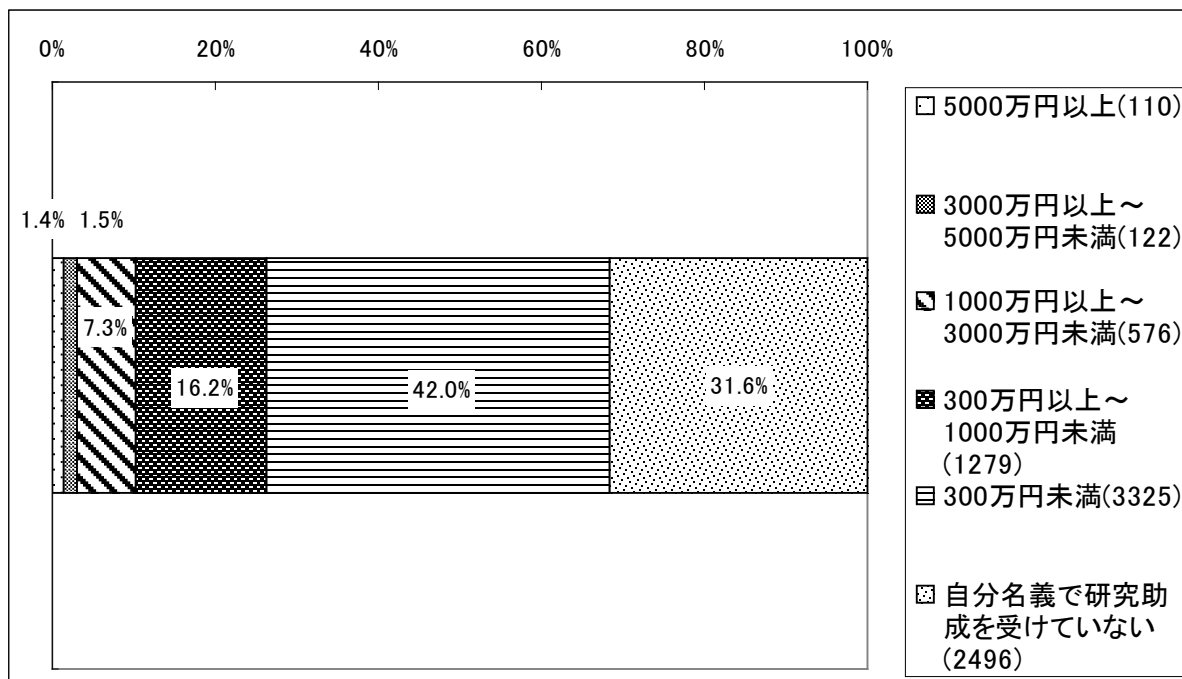


() : 度数

N=7, 908

○ 自分名義の年間助成研究費

図 7 自分名義の年間助成研究費



() : 度数

N=7,908

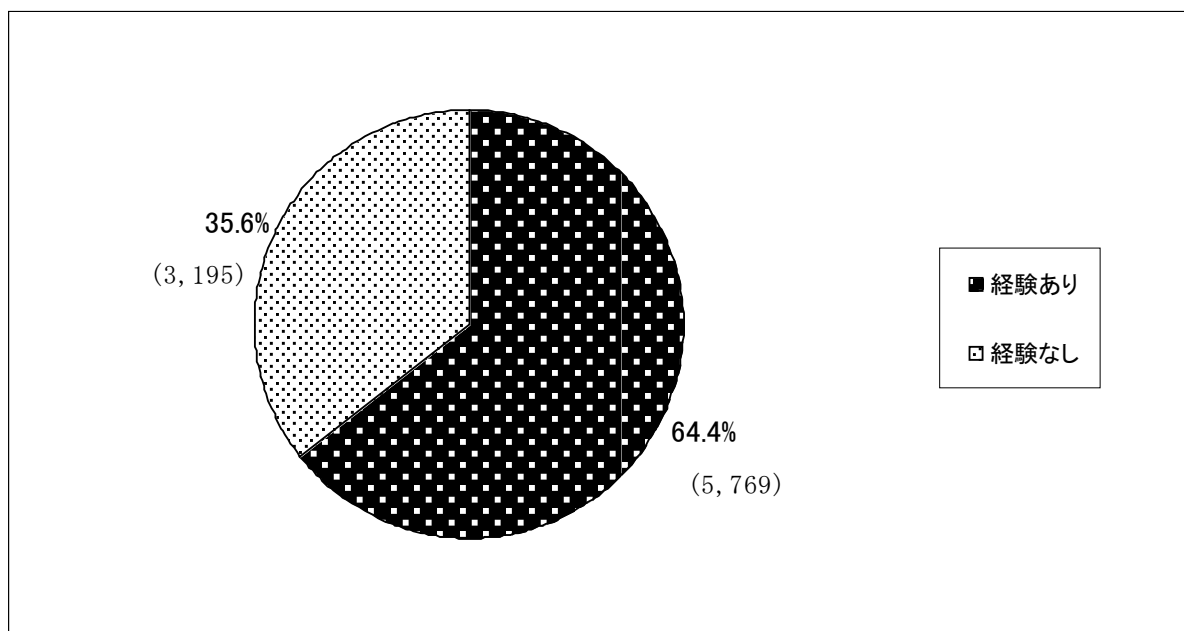
2. 結果

本アンケート調査は、科学コミュニケーション活動の実態（2-1）、科学コミュニケーションを行ううえでの障壁（2-2）、科学コミュニケーション促進のための支援（2-3）、その他、政府方針が研究者による科学コミュニケーションへ与えた影響（2-4）から構成される。この構成にそって調査結果を記す。

2-1 科学コミュニケーション活動の実態

これまでに研究者以外の人々を対象とした科学コミュニケーション活動²を行ったことがあるかを尋ねた結果、アンケートから途中で離脱した人も含めると、行ったことがある人は64.4%（5,769人）、行ったことがない人は35.6%（3,195人）であった。

図 8 科学コミュニケーション活動の経験（回答数 8,964）



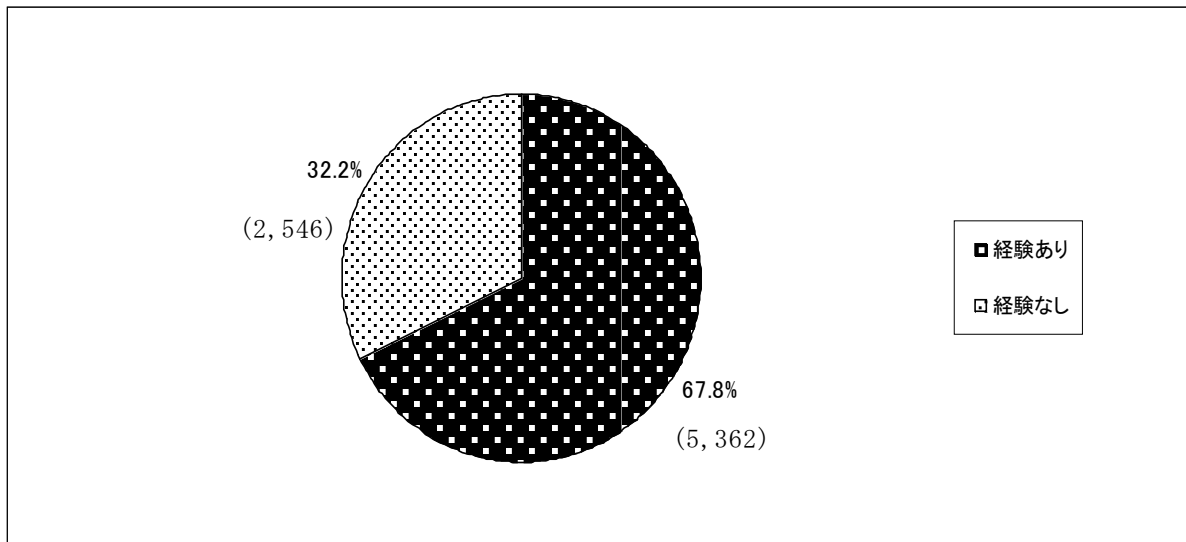
() : 度数

N=8,964

² 専門家むけの学会発表や論文投稿は、オープンアクセスであっても含みません。

最初から最後まで回答した人では、行ったことがある人は67.8% (5,362人)、行ったことがない人は32.2% (2,546人)であった。

図9 科学コミュニケーション活動の経験 (有効回答数 7,908)



() : 度数
N=7,908

自分名義の年間研究助成費が多いほど、科学コミュニケーション活動を行っている割合は高くなる傾向にある。

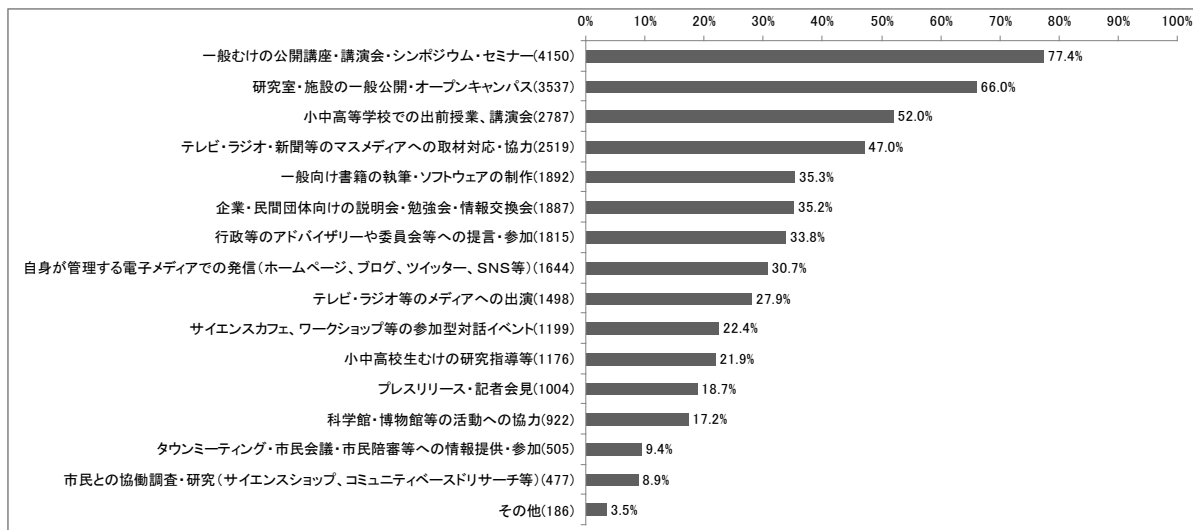
表1 自分名義の年間研究助成費別の科学コミュニケーション活動の経験

自分名義の年間研究助成費		経験あり	経験なし
5000万円以上	度数	102	8
	パーセント	92.7%	7.3%
3000万円以上～5000万円未満	度数	108	14
	パーセント	88.5%	11.5%
1000万円以上～3000万円未満	度数	483	93
	パーセント	83.9%	16.1%
300万円以上～1000万円未満	度数	942	337
	パーセント	73.7%	26.3%
300万円未満	度数	2224	1101
	パーセント	66.9%	33.1%
自分名義で研究助成を受けていない	度数	1503	993
	パーセント	60.2%	39.8%

N=7,908

経験があると回答した人の具体的な活動内容は、次のグラフの示すとおりである。(複数回答)

図 10 科学コミュニケーション活動の具体的な活動内容(複数回答)



() : 度数

N=5,362

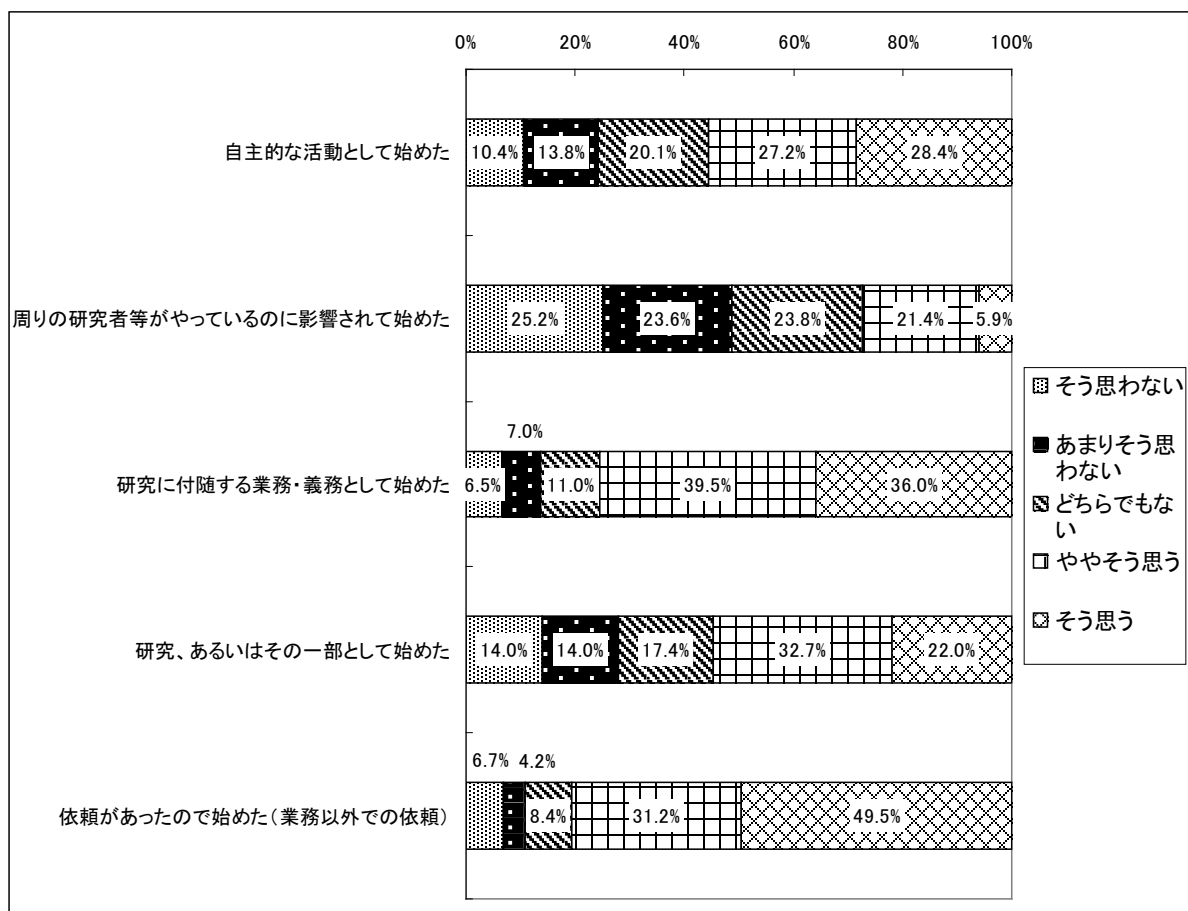
経験があると回答した人の活動のきっかけは以下のとおりである。

表 2 科学コミュニケーション活動のきっかけ

項目	度数・パーセント	そう思わない	あまりそう思わない	どちらでもない	ややそう思う	そう思う
自主的な活動として始めた	度数	559	740	1080	1461	1522
	パーセント	10.4%	13.8%	20.1%	27.2%	28.4%
周りの研究者等がやっているのに影響されて始めた	度数	1351	1268	1278	1149	316
	パーセント	25.2%	23.6%	23.8%	21.4%	5.9%
研究に付随する業務・義務として始めた	度数	351	376	590	2116	1929
	パーセント	6.5%	7.0%	11.0%	39.5%	36.0%
研究、あるいはその一部として始めた	度数	749	750	932	1753	1178
	パーセント	14.0%	14.0%	17.4%	32.7%	22.0%
依頼があったので始めた(業務以外での依頼)	度数	359	224	449	1675	2655
	パーセント	6.7%	4.2%	8.4%	31.2%	49.5%

N=5,362

図 11 科学コミュニケーション活動のきっかけ



N=5, 362

科学コミュニケーション活動の目的は、以下に示すとおりである。科学コミュニケーション活動を行ったことがある人と行ったことのない人の目的が提示されている。活動を行っていない人については、活動するとしたらどのような目的で行うかを尋ねている。

表 3 科学コミュニケーション活動の目的（科学コミュニケーション活動の経験別）

項目	科学コミュニケーション活動の経験	そう思わない	あまりそう思わない	どちらでもない	ややそう思う	そう思う	
そもそも研究者の役割として、研究の経緯や成果を社会に公開するため	経験あり N=5,362	度数	74	182	332	1930	2844
		パーセント	1.4%	3.4%	6.2%	36.0%	53.0%
	経験なし N=2,546	度数	37	64	150	917	1378
		パーセント	1.5%	2.5%	5.9%	36.0%	54.1%
研究者の義務として、研究者の能力を社会的課題の解決に役立てるため	経験あり N=5,362	度数	119	274	571	1967	2431
		パーセント	2.2%	5.1%	10.6%	36.7%	45.3%
	経験なし N=2,546	度数	58	120	281	932	1155
		パーセント	2.3%	4.7%	11.0%	36.6%	45.4%
獲得した研究資金や所属機関等の義務として、資金提供元への説明責任を果たすため	経験あり N=5,362	度数	292	440	865	1952	1813
		パーセント	5.4%	8.2%	16.1%	36.4%	33.8%
	経験なし N=2,546	度数	42	130	280	1053	1041
		パーセント	1.6%	5.1%	11.0%	41.4%	40.9%
納税者への説明責任を果たすため	経験あり N=5,362	度数	439	648	1182	1842	1251
		パーセント	8.2%	12.1%	22.0%	34.4%	23.3%
	経験なし N=2,546	度数	106	249	541	979	671
		パーセント	4.2%	9.8%	21.2%	38.5%	26.4%
科学技術や学術への興味を喚起するため	経験あり N=5,362	度数	86	147	475	2048	2606
		パーセント	1.6%	2.7%	8.9%	38.2%	48.6%
	経験なし N=2,546	度数	22	84	297	1068	1075
		パーセント	0.9%	3.3%	11.7%	41.9%	42.2%
専門家以外の人々の知識水準をあげるため	経験あり N=5,362	度数	209	529	1253	2064	1307
		パーセント	3.9%	9.9%	23.4%	38.5%	24.4%
	経験なし N=2,546	度数	119	321	755	922	429
		パーセント	4.7%	12.6%	29.7%	36.2%	16.8%
子どもの科学離れを防ぐため	経験あり N=5,362	度数	447	627	1419	1637	1232
		パーセント	8.3%	11.7%	26.5%	30.5%	23.0%
	経験なし N=2,546	度数	128	315	746	912	445
		パーセント	5.0%	12.4%	29.3%	35.8%	17.5%
自分の研究分野に対する自身の多面的理解を深めるため	経験あり N=5,362	度数	273	481	999	2155	1454
		パーセント	5.1%	9.0%	18.6%	40.2%	27.1%
	経験なし N=2,546	度数	76	178	509	1115	668
		パーセント	3.0%	7.0%	20.0%	43.8%	26.2%

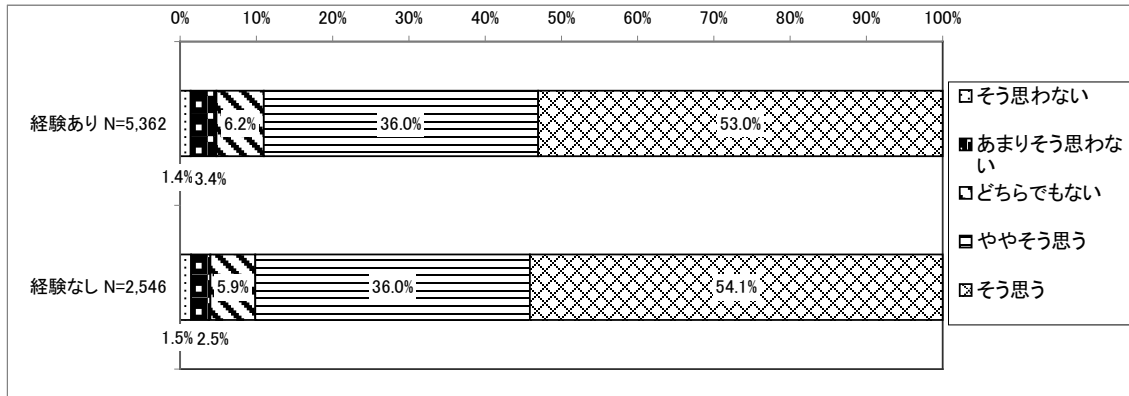
(続き)

項目	科学コミュニケーション活動の経験		そう思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	ややそう思 う	そう思う
多様な人々とのネット ワークづくりをするた め	経験あり N=5,362	度数	255	512	1130	2085	1380
		パーセント	4.8%	9.5%	21.1%	38.9%	25.7%
	経験なし N=2,546	度数	81	201	556	1099	609
		パーセント	3.2%	7.9%	21.8%	43.2%	23.9%
研究成果の社会への応 用・実装につなげるた め	経験あり N=5,362	度数	237	464	933	2034	1694
		パーセント	4.4%	8.7%	17.4%	37.9%	31.6%
	経験なし N=2,546	度数	64	142	396	1119	825
		パーセント	2.5%	5.6%	15.6%	44.0%	32.4%
研究資金の獲得を有利 にするため	経験あり N=5,362	度数	1273	1236	1667	883	303
		パーセント	23.7%	23.1%	31.1%	16.5%	5.7%
	経験なし N=2,546	度数	273	461	948	642	222
		パーセント	10.7%	18.1%	37.2%	25.2%	8.7%
学生や若手研究者を自 分の分野の研究に惹き つけるため	経験あり N=5,362	度数	437	681	1285	1949	1010
		パーセント	8.1%	12.7%	24.0%	36.3%	18.8%
	経験なし N=2,546	度数	121	277	723	1011	414
		パーセント	4.8%	10.9%	28.4%	39.7%	16.3%
社会の動向や意見を知 るため	経験あり N=5,362	度数	434	702	1319	1979	928
		パーセント	8.1%	13.1%	24.6%	36.9%	17.3%
	経験なし N=2,546	度数	101	252	655	1084	454
		パーセント	4.0%	9.9%	25.7%	42.6%	17.8%
専門家以外の人々と対 話をするのが楽しい ため	経験あり N=5,362	度数	337	567	1353	1908	1197
		パーセント	6.3%	10.6%	25.2%	35.6%	22.3%
	経験なし N=2,546	度数	174	348	863	820	341
		パーセント	6.8%	13.7%	33.9%	32.2%	13.4%
自身の知名度を高めた いため	経験あり N=5,362	度数	1775	1240	1496	685	166
		パーセント	33.1%	23.1%	27.9%	12.8%	3.1%
	経験なし N=2,546	度数	642	629	860	330	85
		パーセント	25.2%	24.7%	33.8%	13.0%	3.3%

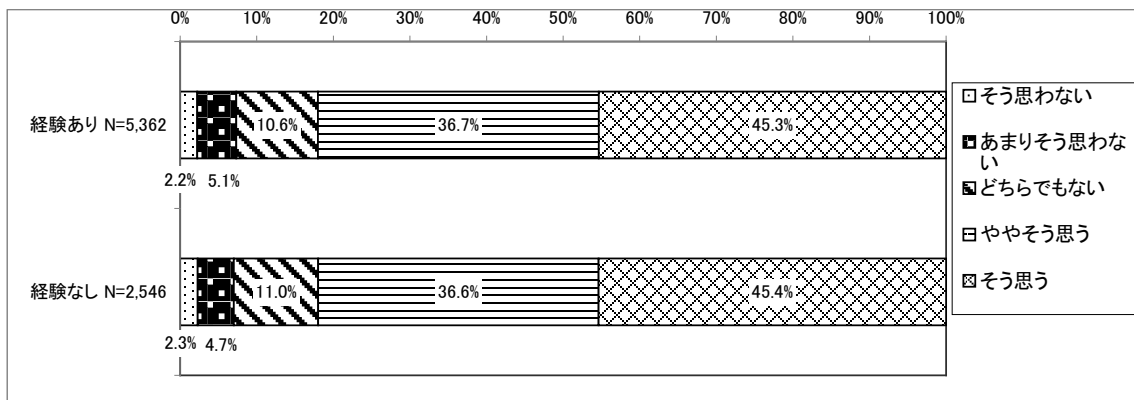
N=7,908

図 12 科学コミュニケーション活動の目的（科学コミュニケーション活動の経験別）

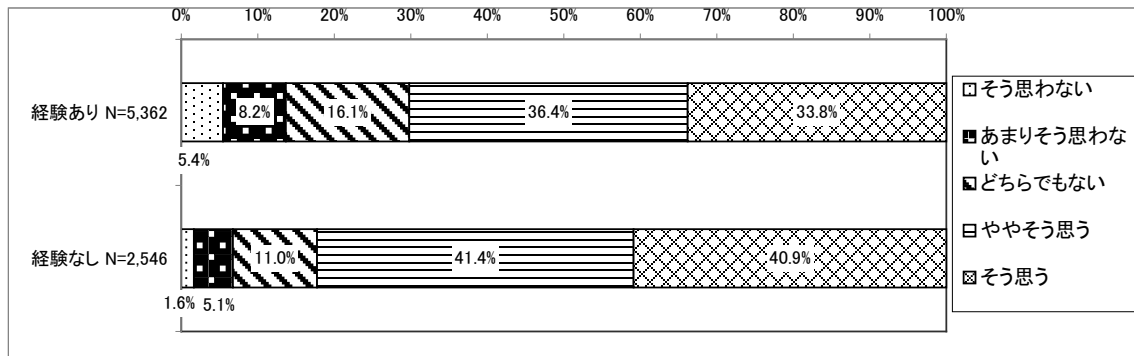
そもそも研究者の役割として、研究の経緯や成果を社会に公開するため



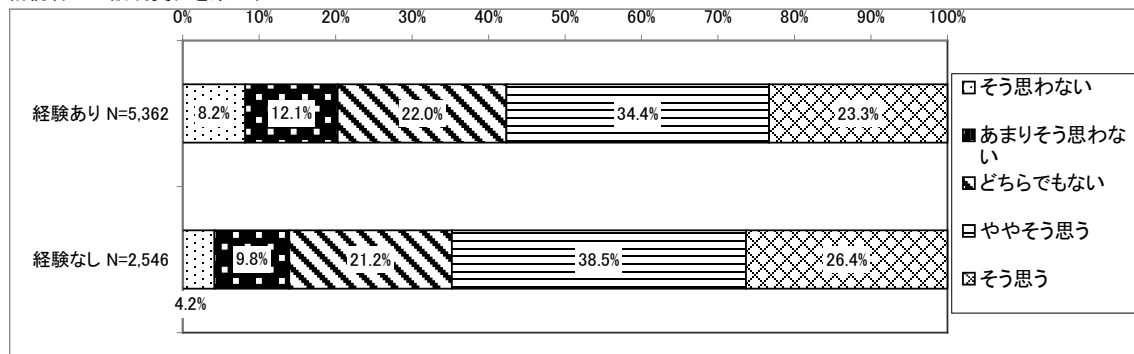
研究者の義務として、研究者の能力を社会的課題の解決に役立てるため



獲得した研究資金や所属機関等の義務として、資金提供元への説明責任を果たすため

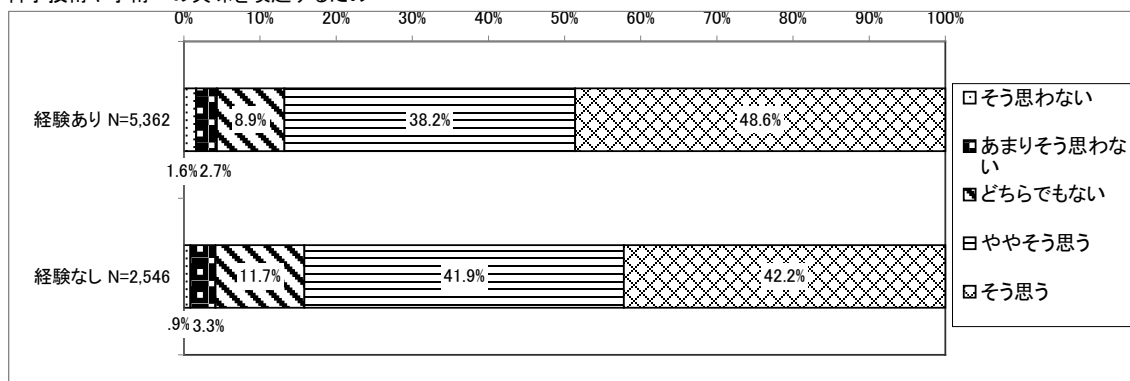


納税者への説明責任を果たすため

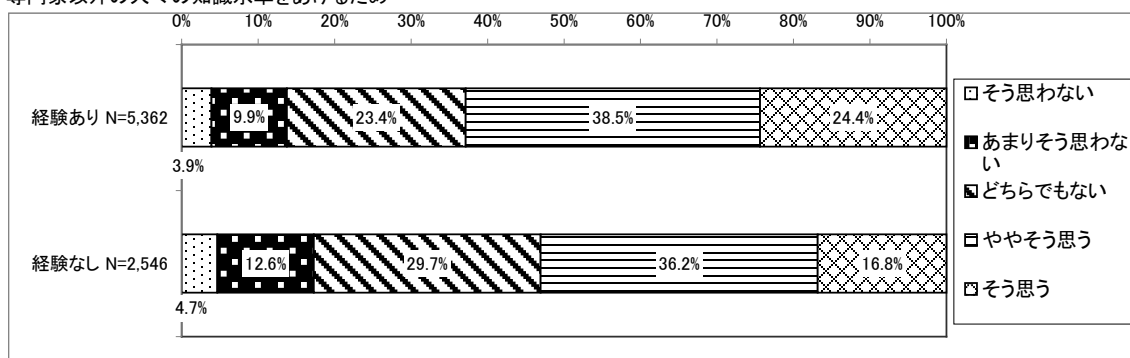


(続き)

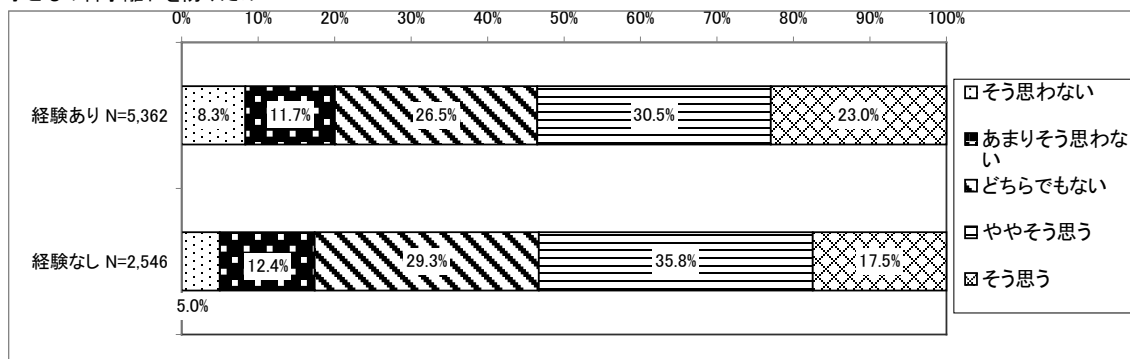
科学技術や学術への興味を喚起するため



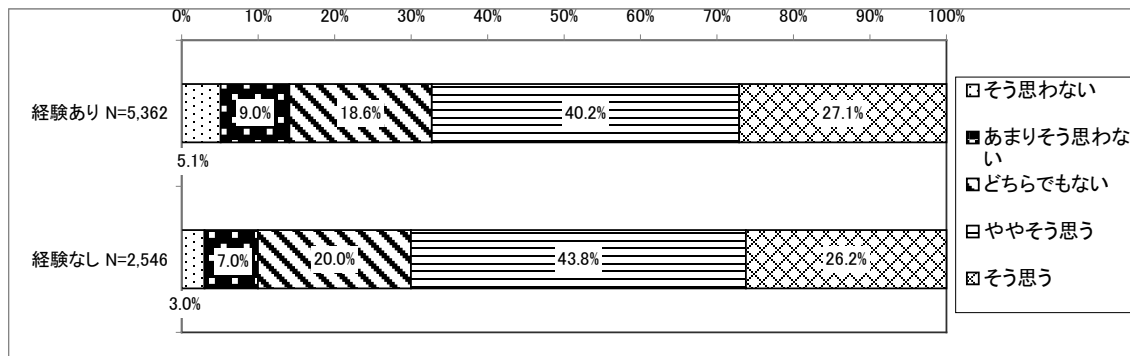
専門家以外の人々の知識水準をあげるため



子どもの科学離れを防ぐため

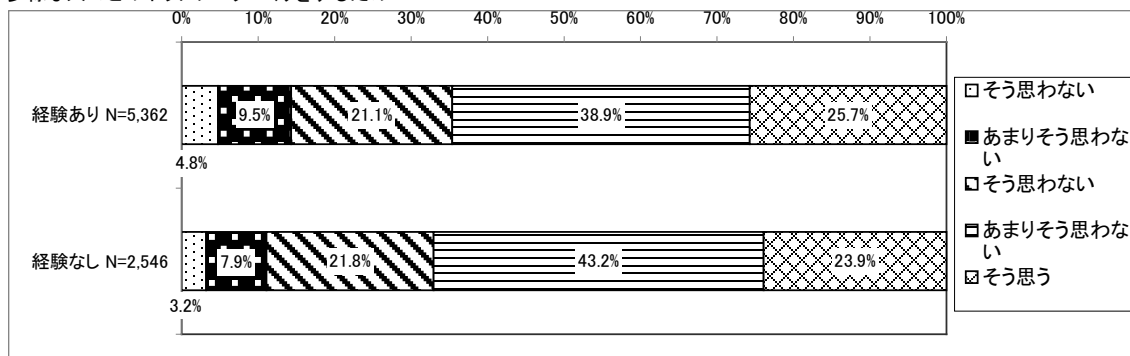


自分の研究分野に対する自身の多面的理解を深めるため

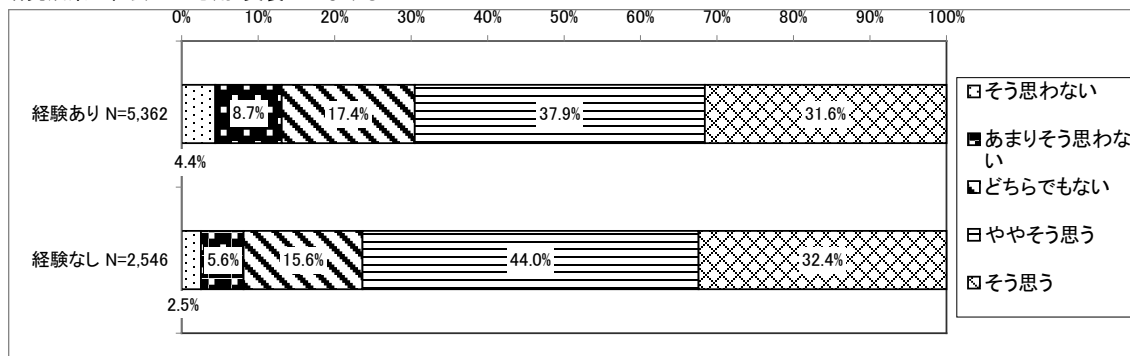


(続き)

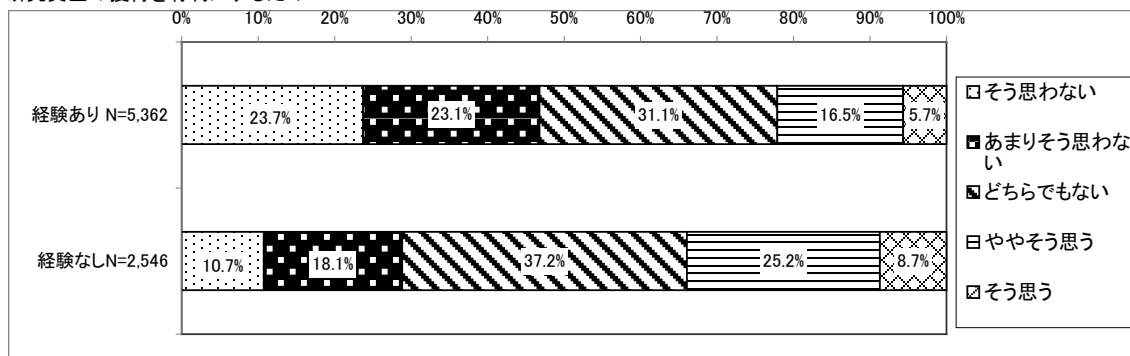
多様な人々とのネットワークづくりをするため



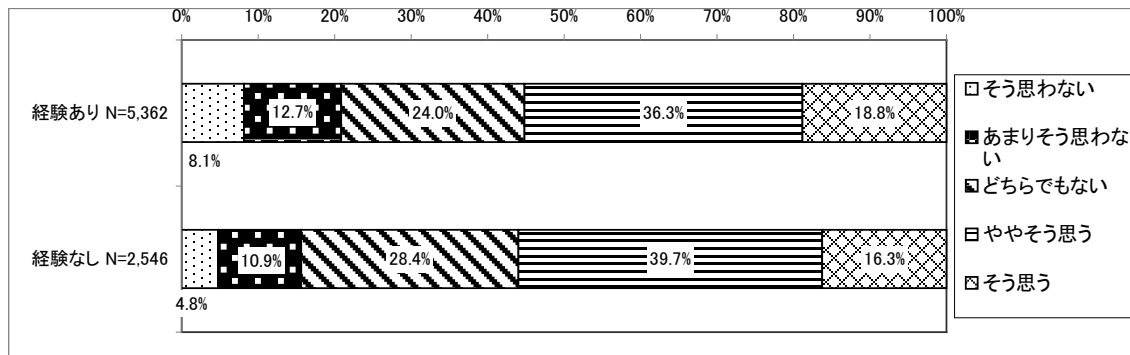
研究成果の社会への応用・実装につなげるため



研究資金の獲得を有利にするため

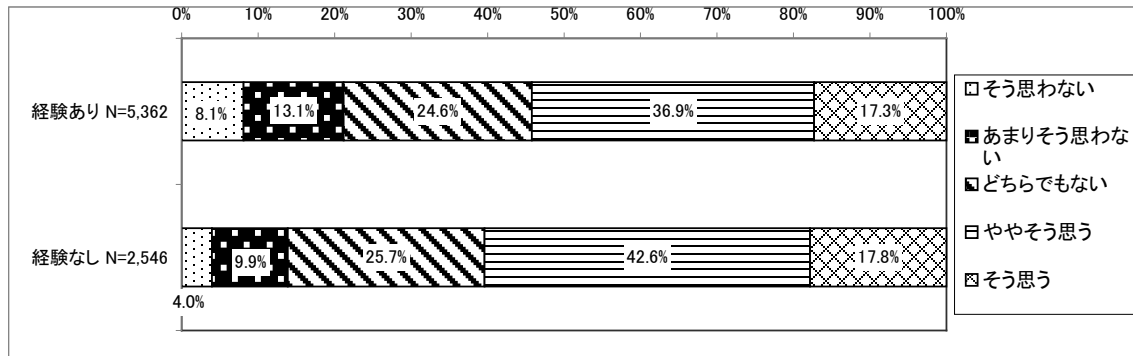


学生や若手研究者を自分の分野の研究に惹きつけるため

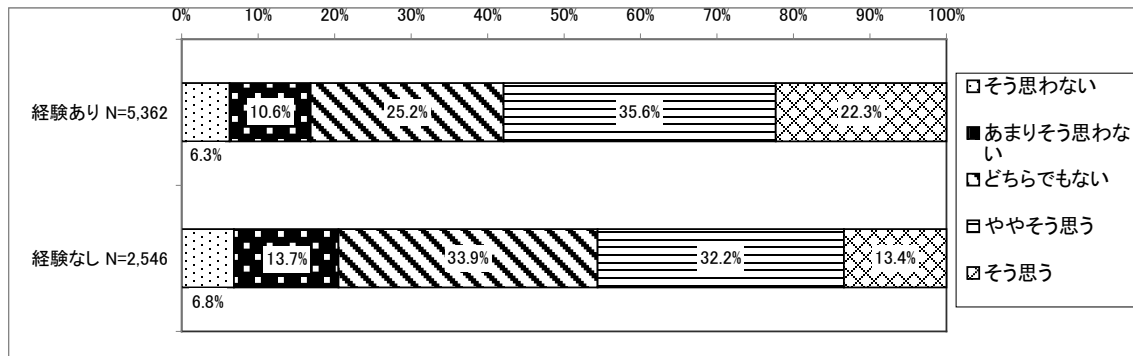


(続き)

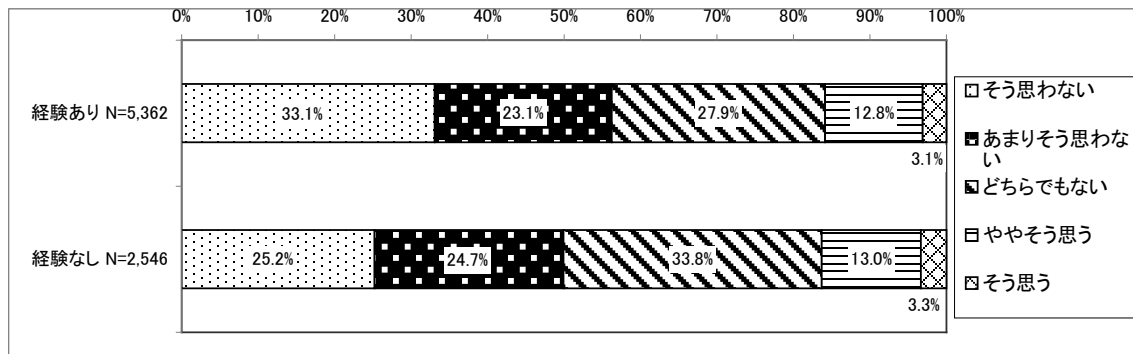
社会の動向や意見を知るため



専門家以外の人々と対話することが楽しいため



自身の知名度を高めたいため



科学コミュニケーション活動を行った結果として達成されたことは以下に示すとおりである。表には、科学コミュニケーション活動を行ったことがある人とない人の回答が提示されている。なお、科学コミュニケーションを行ったことのある人には、実際に達成されたことを尋ねている。科学コミュニケーション活動を行ったことのない人には、活動を行うとしたら、達成されたいことは何かを尋ねている。

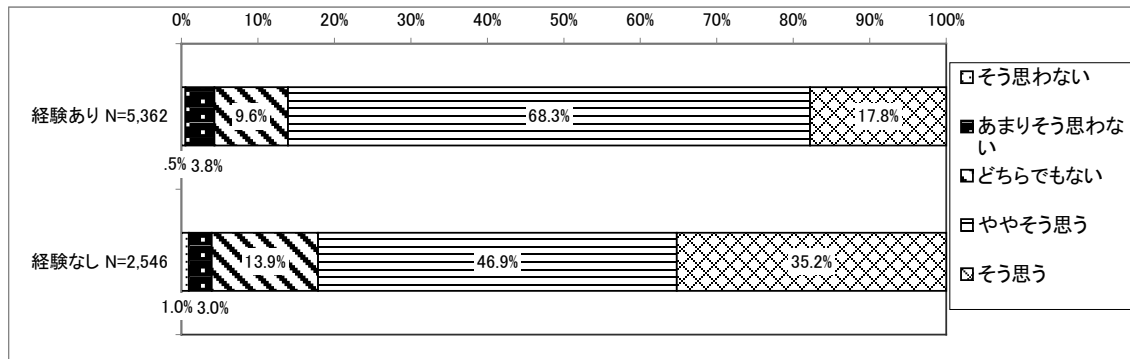
表 4 科学コミュニケーション活動を行った結果として達成されたこと

項目	科学コミュニケーション活動の経験		そう思わない	あまりそう思わない	どちらでもない	ややそう思う	そう思う
自分の伝えたかったことが伝わった	経験あり N=5,362	度数	28	204	515	3661	954
		パーセント	.5%	3.8%	9.6%	68.3%	17.8%
	経験なし N=2,546	度数	25	76	354	1194	897
		パーセント	1.0%	3.0%	13.9%	46.9%	35.2%
相手が伝えたかったことを理解できた	経験あり N=5,362	度数	64	306	1285	3093	614
		パーセント	1.2%	5.7%	24.0%	57.7%	11.5%
	経験なし N=2,546	度数	23	80	495	1256	692
		パーセント	.9%	3.1%	19.4%	49.3%	27.2%
考えや思いを共有できた	経験あり N=5,362	度数	59	316	1366	2898	723
		パーセント	1.1%	5.9%	25.5%	54.0%	13.5%
	経験なし N=2,546	度数	37	93	575	1130	711
		パーセント	1.5%	3.7%	22.6%	44.4%	27.9%
新しい知見や気づきが得られた	経験あり N=5,362	度数	168	492	1084	2341	1277
		パーセント	3.1%	9.2%	20.2%	43.7%	23.8%
	経験なし N=2,546	度数	26	62	315	1055	1088
		パーセント	1.0%	2.4%	12.4%	41.4%	42.7%
社会的課題の解決につながった	経験あり N=5,362	度数	471	991	1990	1520	390
		パーセント	8.8%	18.5%	37.1%	28.3%	7.3%
	経験なし N=2,546	度数	59	151	587	960	789
		パーセント	2.3%	5.9%	23.1%	37.7%	31.0%

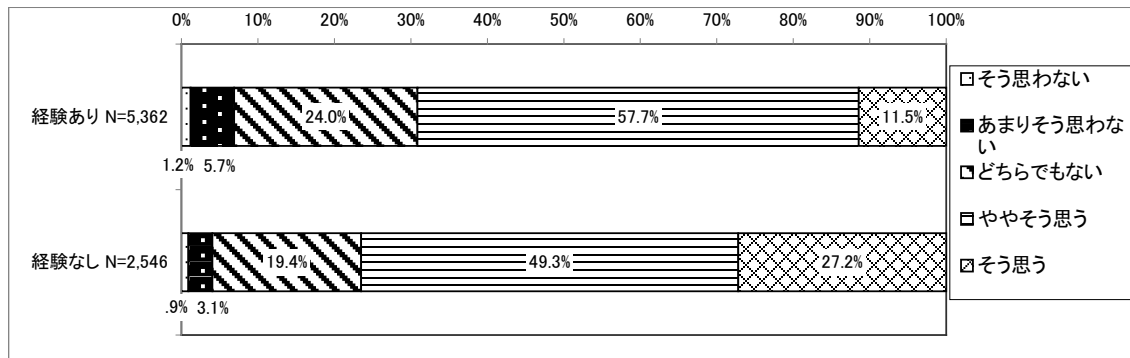
N=7,908

図 13 科学コミュニケーション活動を行った結果として達成されたこと

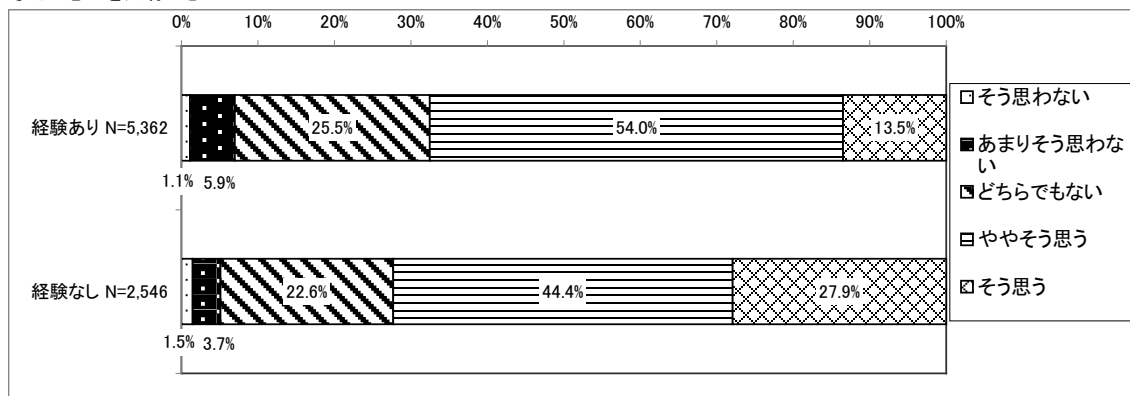
自分の伝えなかったことが伝わった



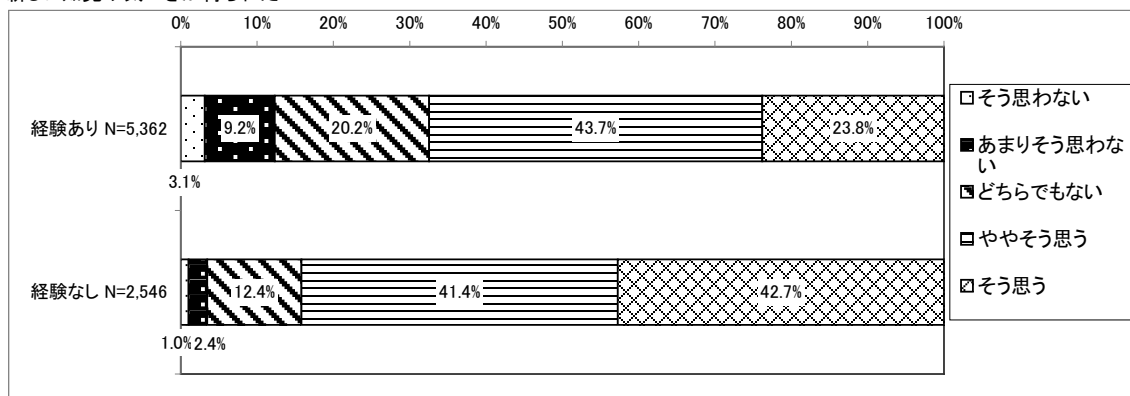
相手が伝えなかったことを理解できた



考えや思いを共有できた

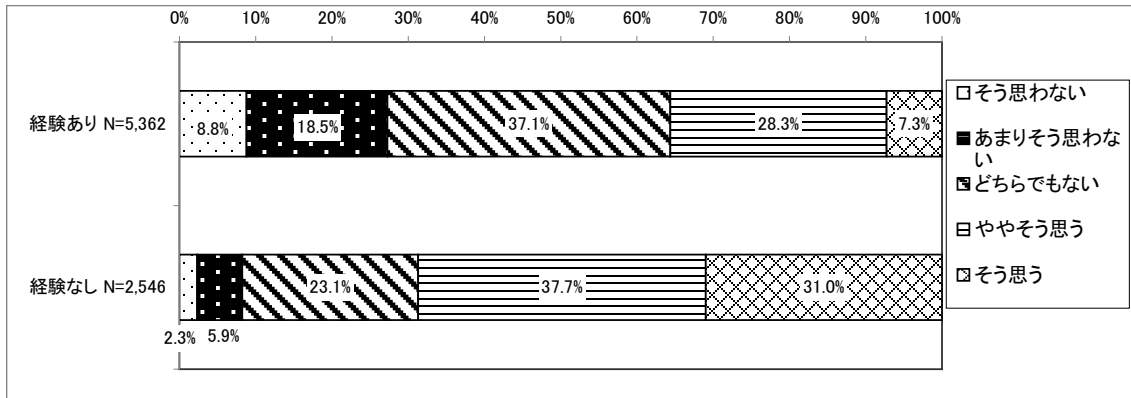


新しい知見や気づきを得られた



(続き)

社会的課題の解決につながった



2-2 科学コミュニケーション活動を行ううえでの障壁

科学コミュニケーション活動を行ううえでの障壁として回答された項目は下記のとおりである。

表 5 科学コミュニケーション活動を行ううえでの障壁

項目	科学コミュニケーション活動の経験		そう思わない	あまりそう思わない	どちらでもない	やや思う	そう思う
時間的余裕がない	経験あり N=5,362	度数	105	370	444	2105	2338
		パーセント	2.0%	6.9%	8.3%	39.3%	43.6%
	経験なし N=2,546	度数	34	105	211	938	1258
		パーセント	1.3%	4.1%	8.3%	36.8%	49.4%
活動に必要な事務的な作業が多い	経験あり N=5,362	度数	114	474	778	2022	1974
		パーセント	2.1%	8.8%	14.5%	37.7%	36.8%
	経験なし N=2,546	度数	27	68	267	927	1257
		パーセント	1.1%	2.7%	10.5%	36.4%	49.4%
周囲の理解・協力が得られない	経験あり N=5,362	度数	513	1466	1728	1170	485
		パーセント	9.6%	27.3%	32.2%	21.8%	9.0%
	経験なし N=2,546	度数	110	398	914	747	377
		パーセント	4.3%	15.6%	35.9%	29.3%	14.8%
業績として評価されない	経験あり N=5,362	度数	353	1031	1234	1472	1272
		パーセント	6.6%	19.2%	23.0%	27.5%	23.7%
	経験なし N=2,546	度数	129	397	762	727	531
		パーセント	5.1%	15.6%	29.9%	28.6%	20.9%
費用の捻出が難しい	経験あり N=5,362	度数	374	910	1402	1575	1101
		パーセント	7.0%	17.0%	26.1%	29.4%	20.5%
	経験なし N=2,546	度数	57	188	554	989	758
		パーセント	2.2%	7.4%	21.8%	38.8%	29.8%
わかりやすく説明したり、対話したりすることがむずかしい	経験あり N=5,362	度数	974	1592	940	1392	464
		パーセント	18.2%	29.7%	17.5%	26.0%	8.7%
	経験なし N=2,546	度数	294	619	612	746	275
		パーセント	11.5%	24.3%	24.0%	29.3%	10.8%
コミュニケーション活動を行うための場をつくるのが難しい	経験あり N=5,362	度数	454	1164	1480	1763	501
		パーセント	8.5%	21.7%	27.6%	32.9%	9.3%
	経験なし N=2,546	度数	85	255	577	1112	517
		パーセント	3.3%	10.0%	22.7%	43.7%	20.3%
相手の無関心	経験あり N=5,362	度数	732	1494	1770	1085	281
		パーセント	13.7%	27.9%	33.0%	20.2%	5.2%
	経験なし N=2,546	度数	140	384	951	767	304
		パーセント	5.5%	15.1%	37.4%	30.1%	11.9%

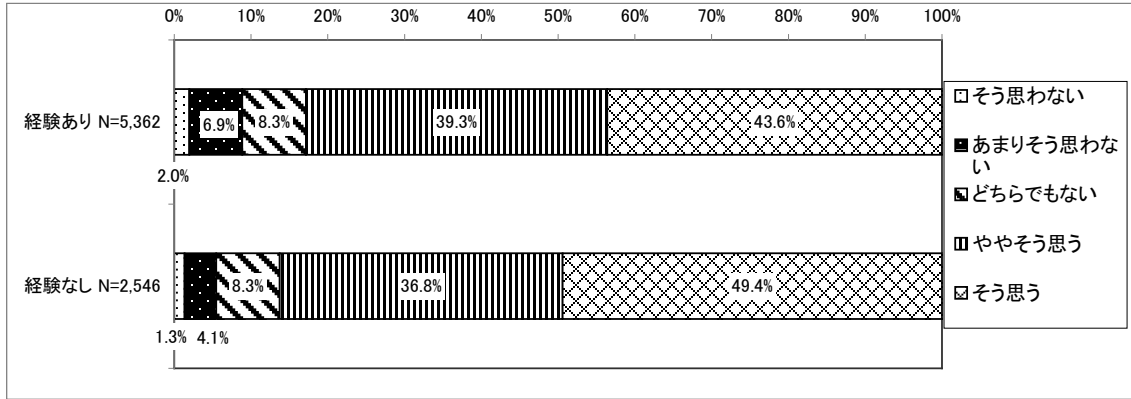
(続き)

項目	科学コミュニケーション活動の経験		そう思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	ややそう 思う	そう思う
相手の知識の欠如	経験あり N=5,362	度数	965	1694	1710	784	209
		パーセント	18.0%	31.6%	31.9%	14.6%	3.9%
	経験なし N=2,546	度数	249	558	1008	548	183
		パーセント	9.8%	21.9%	39.6%	21.5%	7.2%
相手との考え方や価値観の相違	経験あり N=5,362	度数	841	1540	1792	953	236
		パーセント	15.7%	28.7%	33.4%	17.8%	4.4%
	経験なし N=2,546	度数	209	525	985	634	193
		パーセント	8.2%	20.6%	38.7%	24.9%	7.6%
相手から求められる専門家像と自身とのギャップ	経験あり N=5,362	度数	774	1461	1676	1154	297
		パーセント	14.4%	27.2%	31.3%	21.5%	5.5%
	経験なし N=2,546	度数	198	443	909	750	246
		パーセント	7.8%	17.4%	35.7%	29.5%	9.7%
得るものが無い	経験あり N=5,362	度数	2204	1820	1015	260	63
		パーセント	41.1%	33.9%	18.9%	4.8%	1.2%
	経験なし N=2,546	度数	641	795	819	219	72
		パーセント	25.2%	31.2%	32.2%	8.6%	2.8%
科学コミュニケーション活動に興味がない	経験あり N=5,362	度数	2619	1595	906	189	53
		パーセント	48.8%	29.7%	16.9%	3.5%	1.0%
	経験なし N=2,546	度数	573	731	902	257	83
		パーセント	22.5%	28.7%	35.4%	10.1%	3.3%
説明義務は論文発表で十分はたしている	経験あり N=5,362	度数	2085	1621	1135	380	141
		パーセント	38.9%	30.2%	21.2%	7.1%	2.6%
	経験なし N=2,546	度数	439	699	774	486	148
		パーセント	17.2%	27.5%	30.4%	19.1%	5.8%

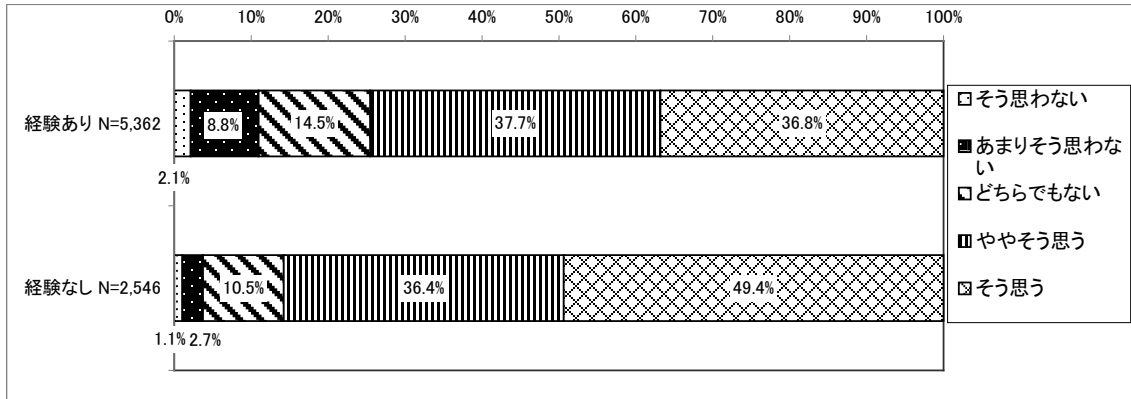
N=7,908

図 14 科学コミュニケーション活動を行ううえでの障壁
(科学コミュニケーション活動有無別)

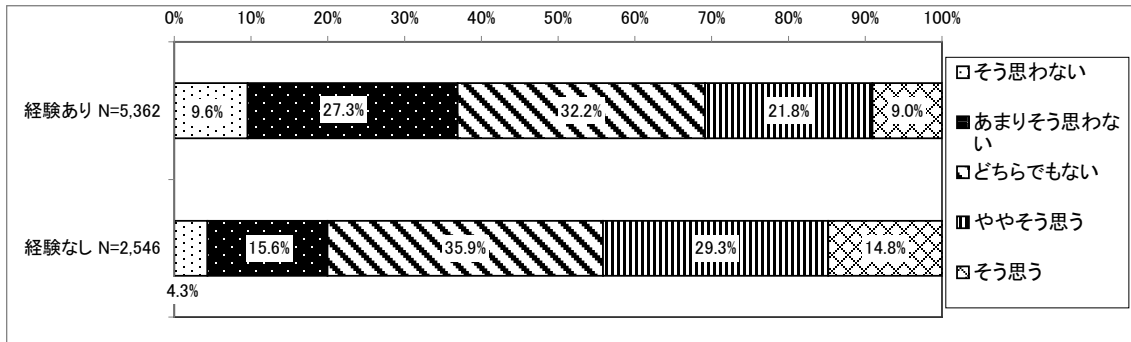
時間的余裕がない



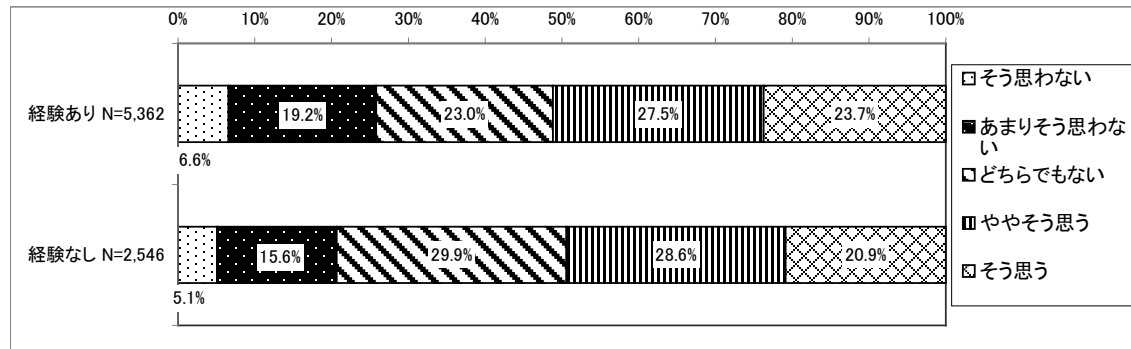
活動に必要な事務的な作業が多い



周囲の理解・協力が得られない

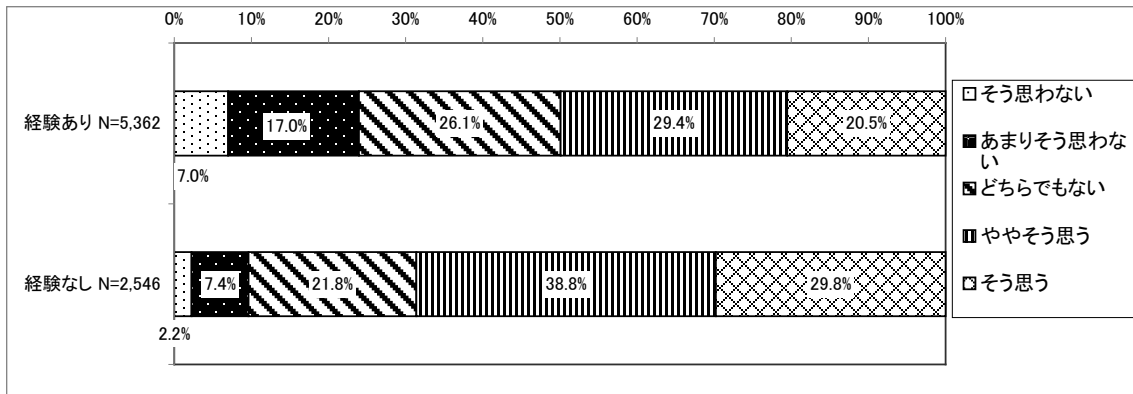


業績として評価されない

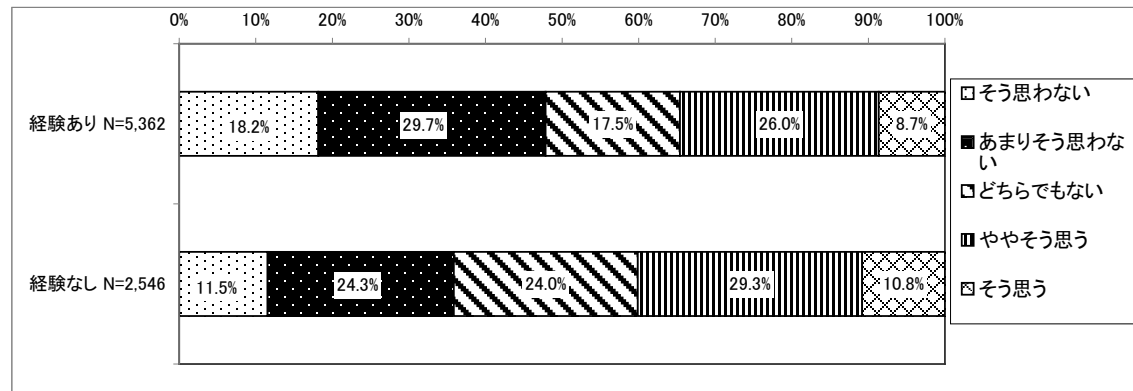


(続き)

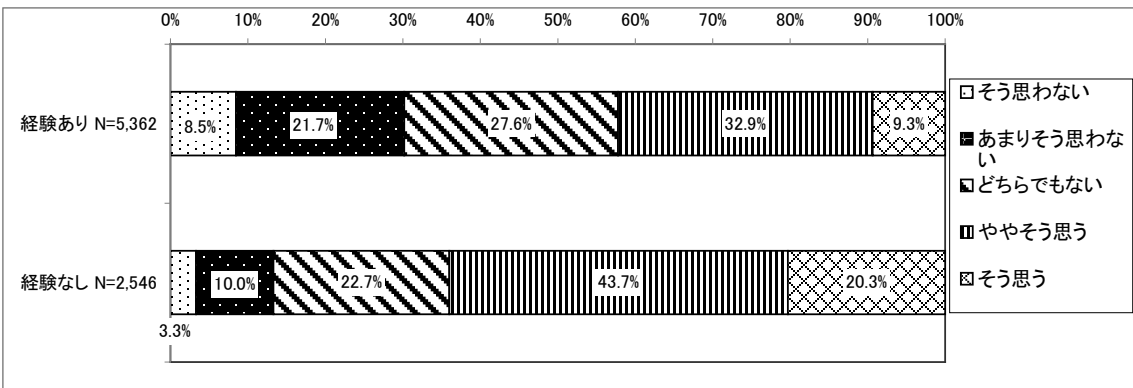
費用の捻出が難しい



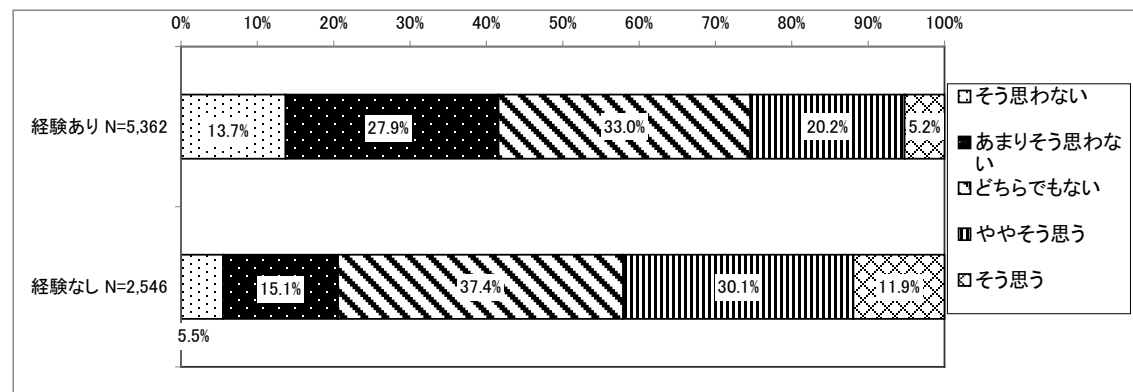
わかりやすく説明したり、対話したりすることがむずかしい



コミュニケーション活動を行うための場をつくるのが難しい

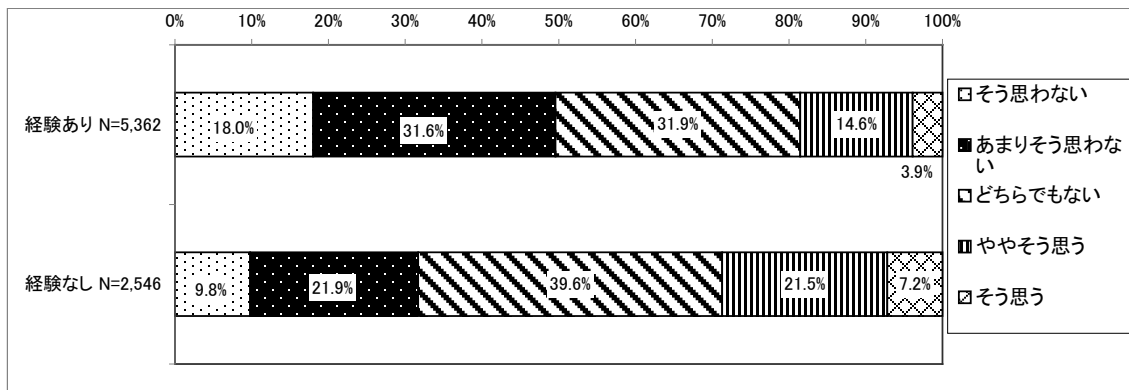


相手の無関心

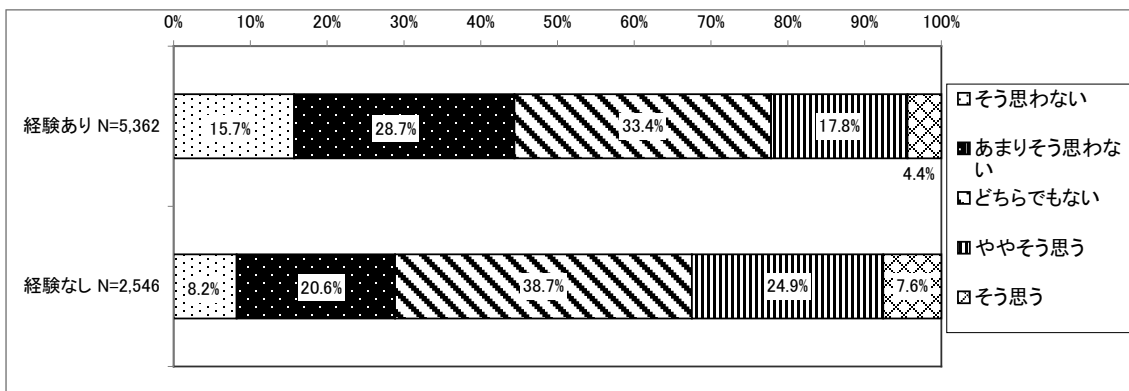


(続き)

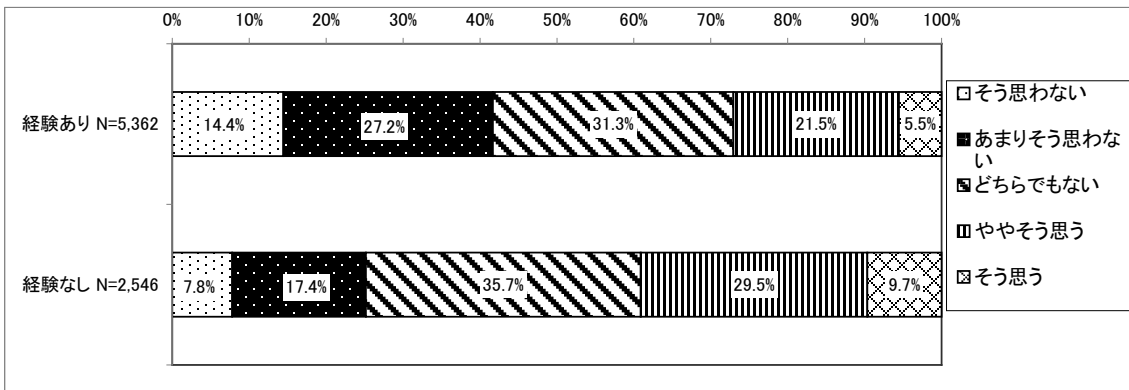
相手の知識の欠如



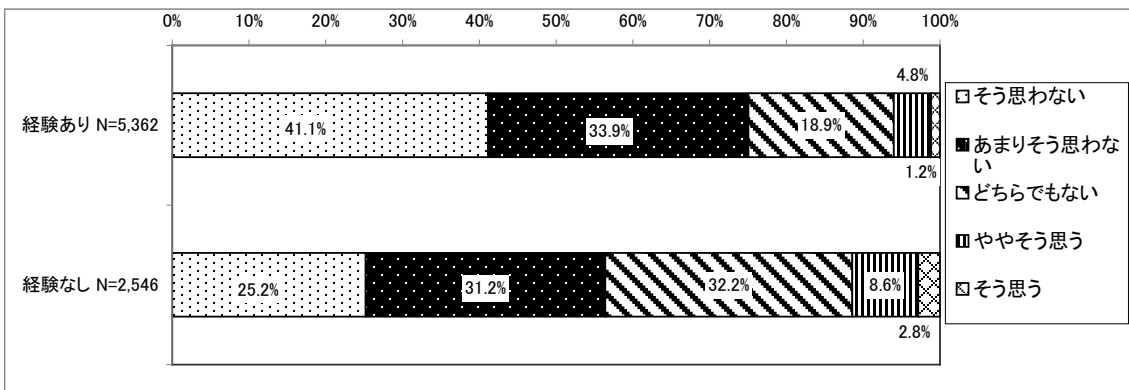
相手との考え方や価値観の相違



相手から求められる専門家像と自身とのギャップ

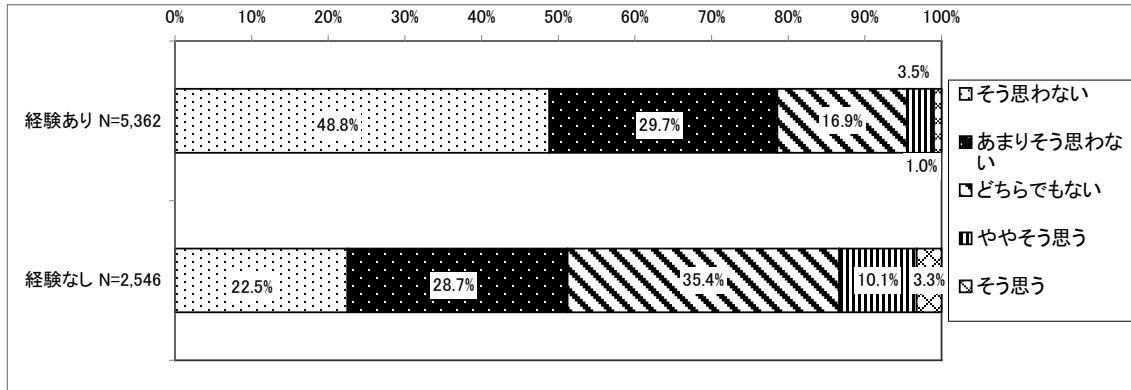


得るものが無い



(続き)

科学コミュニケーション活動に興味がない



説明義務は論文発表で十分はたしている

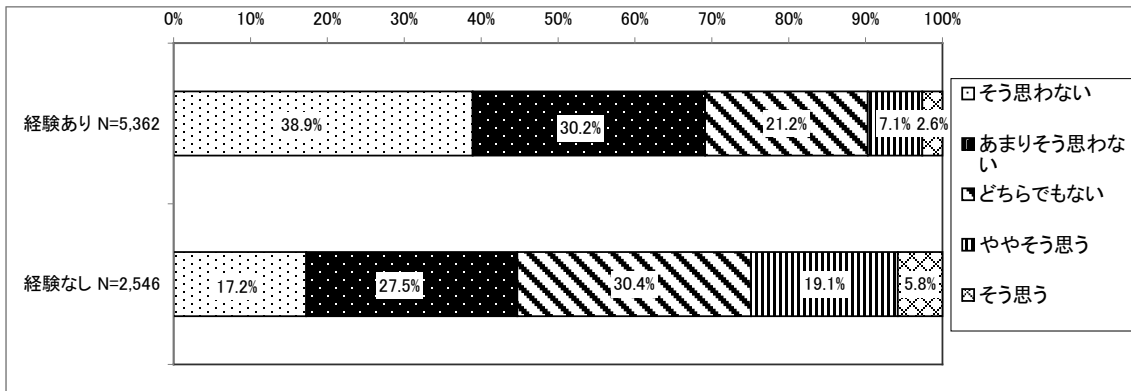
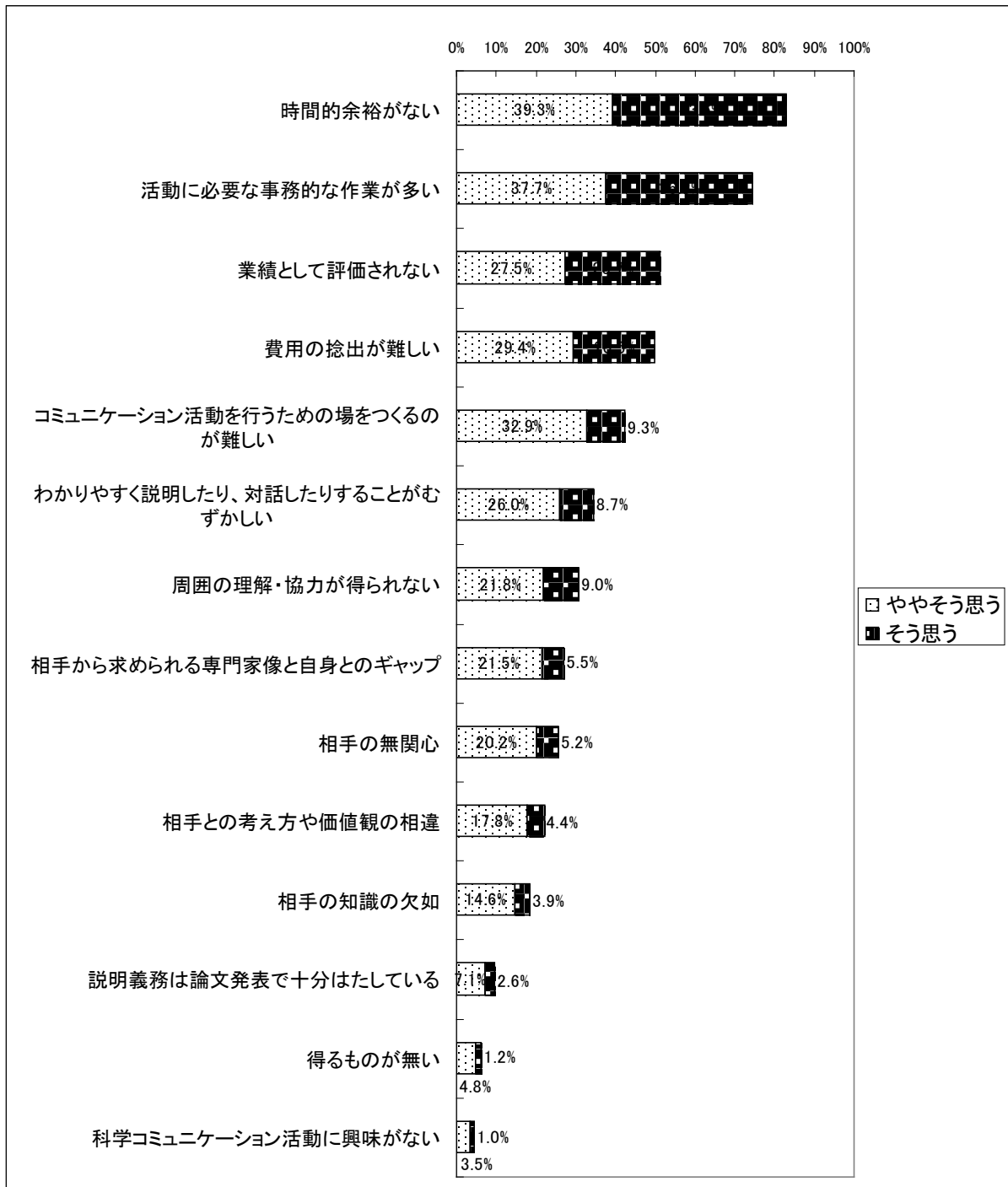
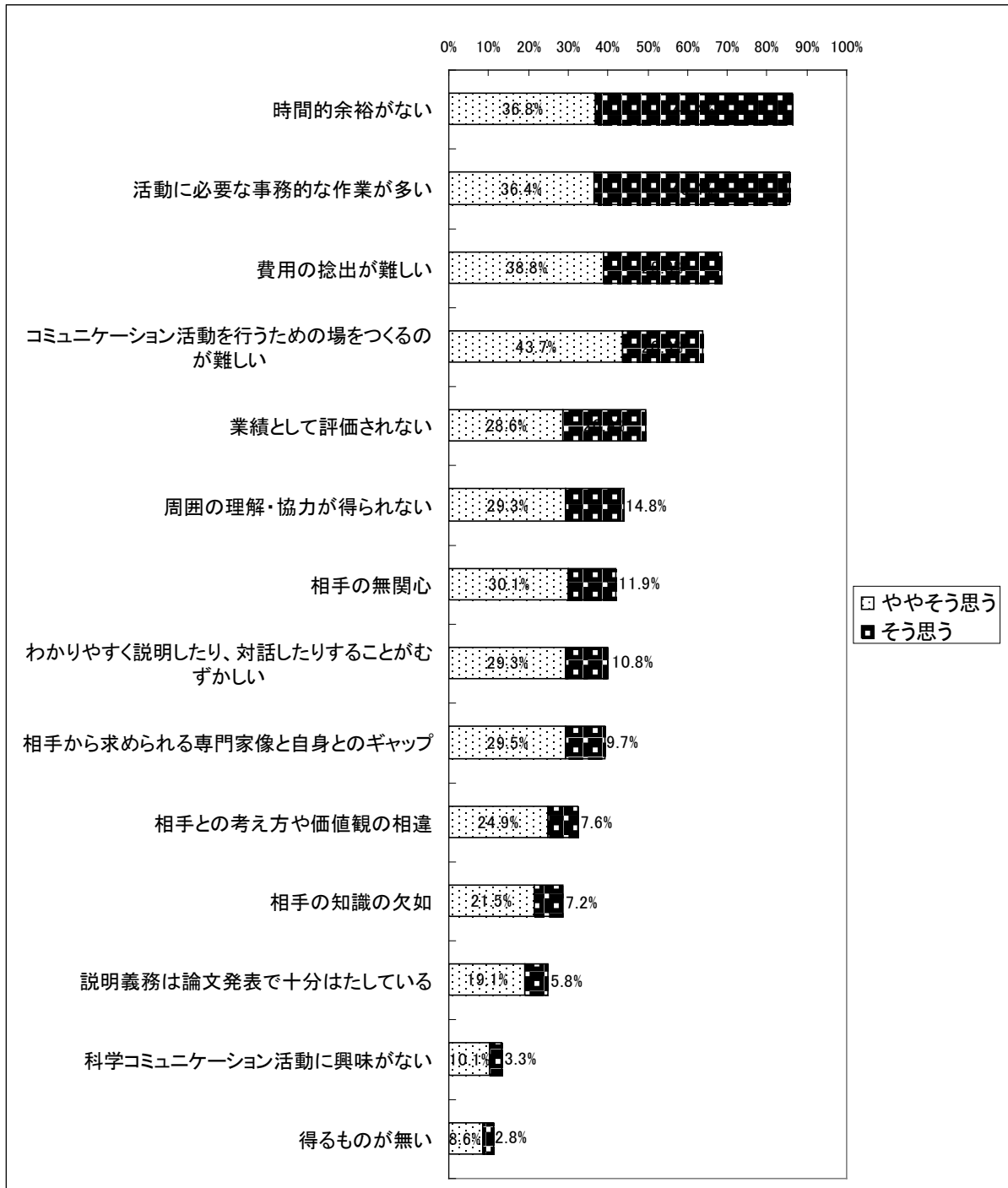


図 15 科学コミュニケーション活動の経験がある人の
科学コミュニケーション活動を行ううえでの障壁（ややそう思う、そう思う）



N=5, 362

図 16 科学コミュニケーション活動の経験がない人の
科学コミュニケーション活動を行ううえでの障壁（ややそう思う、そう思う）



N=2, 546

2-3 科学コミュニケーション促進のための支援

科学コミュニケーションを促進するための支援として回答された項目は次のとおりである。

**表 6 科学コミュニケーションを促進するための支援
(科学コミュニケーション活動の経験別)**

項目	科学コミュニケーション活動の経験		そう思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	ややそう思 う	そう思う
人的な支援体制	経験あり N=5,362	度数	61	253	537	2416	2095
		パーセント	1.1%	4.7%	10.0%	45.1%	39.1%
	経験なし N=2,546	度数	26	60	240	1102	1118
		パーセント	1.0%	2.4%	9.4%	43.3%	43.9%
学会や組織等 による褒賞	経験あり N=5,362	度数	506	962	1523	1609	762
		パーセント	9.4%	17.9%	28.4%	30.0%	14.2%
	経験なし N=2,546	度数	147	355	805	807	432
		パーセント	5.8%	13.9%	31.6%	31.7%	17.0%
論文に相当する ような業績 としての評価	経験あり N=5,362	度数	368	716	1106	1933	1239
		パーセント	6.9%	13.4%	20.6%	36.0%	23.1%
	経験なし N=2,546	度数	108	251	561	990	636
		パーセント	4.2%	9.9%	22.0%	38.9%	25.0%
来場者からの 直接的評価	経験あり N=5,362	度数	166	488	1420	2318	970
		パーセント	3.1%	9.1%	26.5%	43.2%	18.1%
	経験なし N=2,546	度数	82	218	838	1066	342
		パーセント	3.2%	8.6%	32.9%	41.9%	13.4%
謝金・執筆 費・出演費な どの金銭的報 酬	経験あり N=5,362	度数	455	961	1563	1679	704
		パーセント	8.5%	17.9%	29.1%	31.3%	13.1%
	経験なし N=2,546	度数	133	371	848	810	384
		パーセント	5.2%	14.6%	33.3%	31.8%	15.1%
必要経費の補 助	経験あり N=5,362	度数	103	247	555	2605	1852
		パーセント	1.9%	4.6%	10.4%	48.6%	34.5%
	経験なし N=2,546	度数	25	79	258	1262	922
		パーセント	1.0%	3.1%	10.1%	49.6%	36.2%

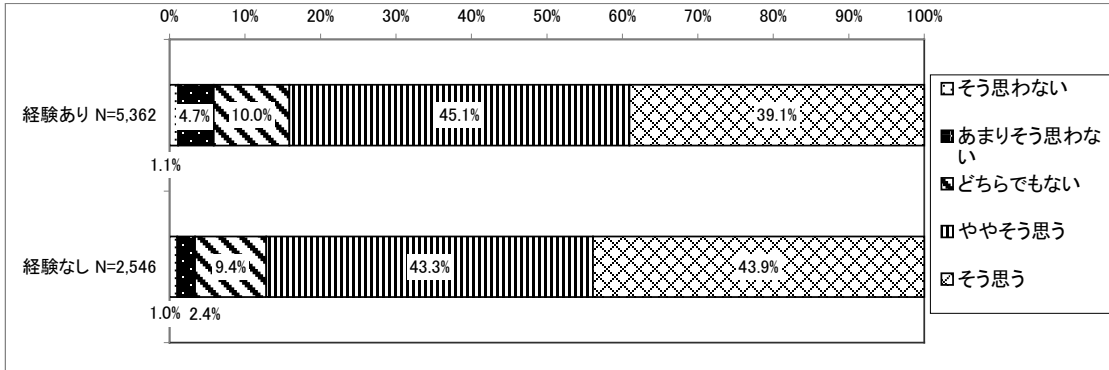
(続き)

項目	科学コミュニケーション活動の経験		そう思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	ややそう思 う	そう思う
活動事例を紹介するデータベース・書籍・マニュアル等	経験あり N=5,362	度数	320	637	1502	2124	779
		パーセント	6.0%	11.9%	28.0%	39.6%	14.5%
	経験なし N=2,546	度数	71	197	636	1166	476
		パーセント	2.8%	7.7%	25.0%	45.8%	18.7%
活動に役立つスキルトレーニング・講義・講習	経験あり N=5,362	度数	487	875	1594	1734	672
		パーセント	9.1%	16.3%	29.7%	32.3%	12.5%
	経験なし N=2,546	度数	117	287	713	1014	415
		パーセント	4.6%	11.3%	28.0%	39.8%	16.3%
実践の機会や場所の提供・紹介	経験あり N=5,362	度数	202	395	1136	2433	1196
		パーセント	3.8%	7.4%	21.2%	45.4%	22.3%
	経験なし N=2,546	度数	33	93	441	1278	701
		パーセント	1.3%	3.7%	17.3%	50.2%	27.5%
活動の成果やノウハウを発表し、共有するイベントや勉強会等	経験あり N=5,362	度数	340	707	1562	2029	724
		パーセント	6.3%	13.2%	29.1%	37.8%	13.5%
	経験なし N=2,546	度数	70	192	643	1159	482
		パーセント	2.7%	7.5%	25.3%	45.5%	18.9%

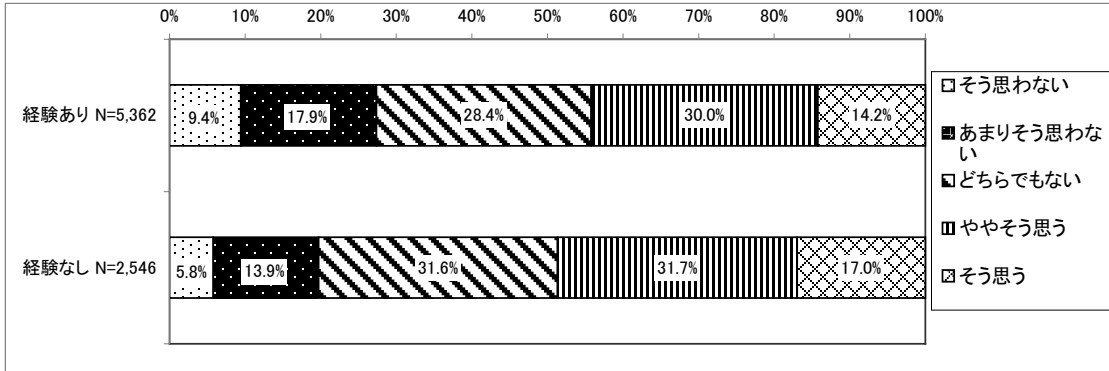
N=7,908

図 17 科学コミュニケーションを促進するための支援
(科学コミュニケーション活動の経験別)

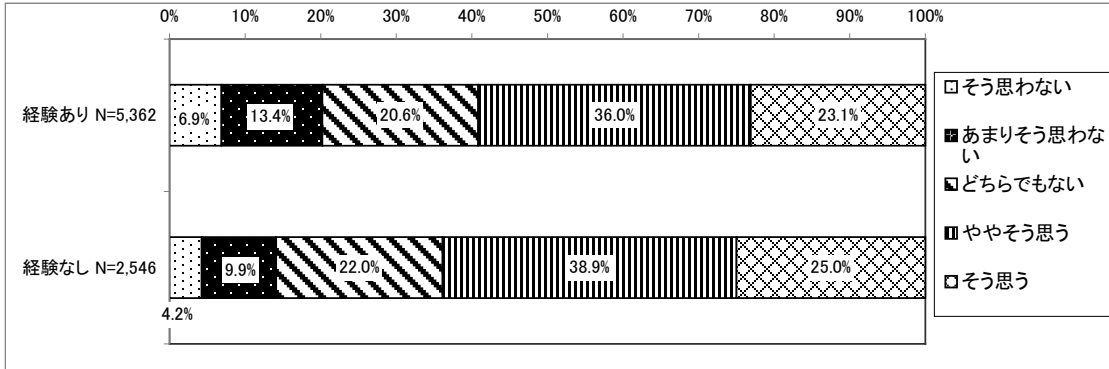
人的な支援体制



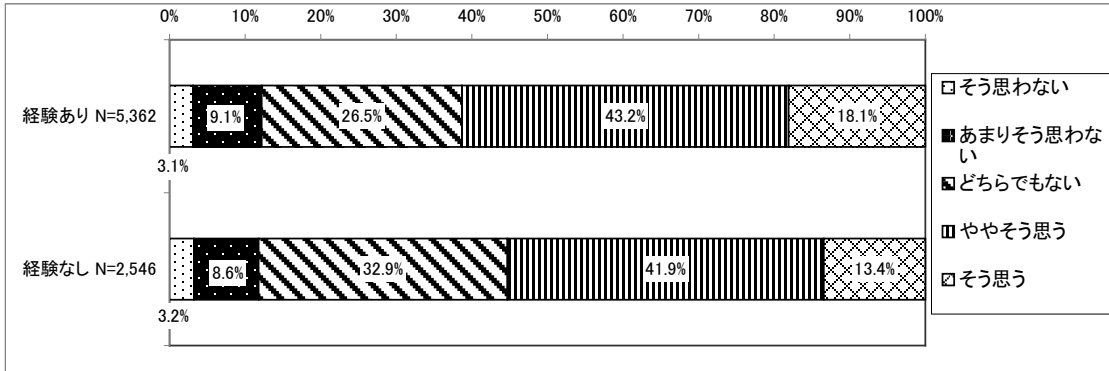
学会や組織等による褒賞



論文に相当するような業績としての評価

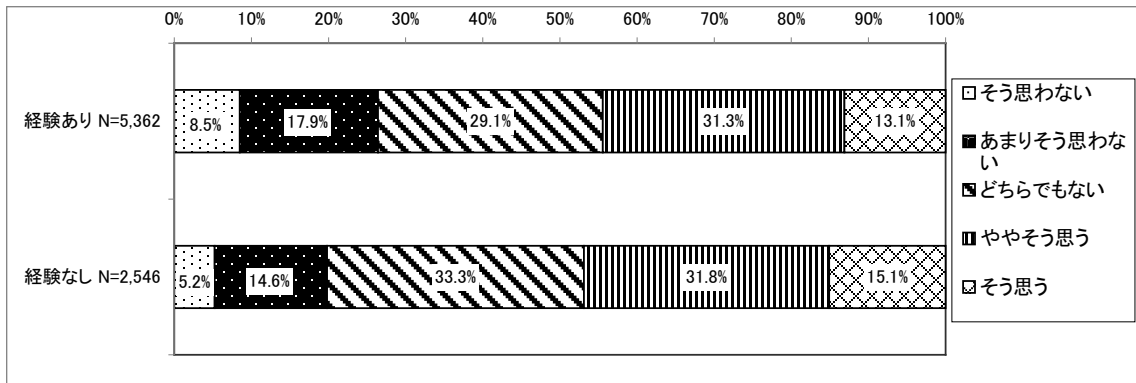


来場者からの直接的評価

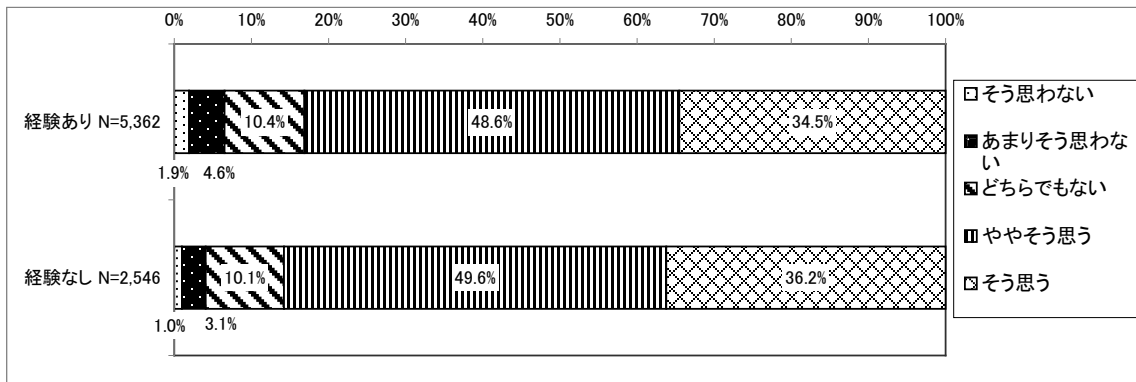


(続き)

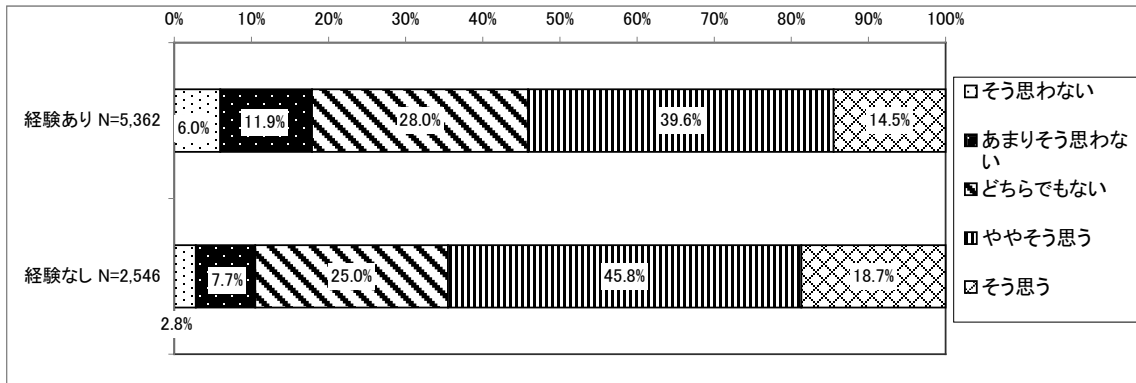
謝金・執筆費・出演費などの金銭的報酬



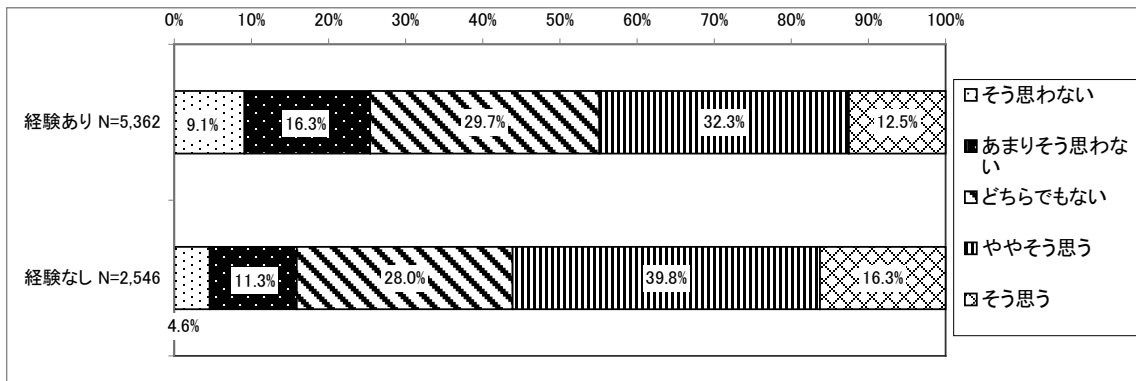
必要経費の補助



活動事例を紹介するデータベース・書籍・マニュアル等

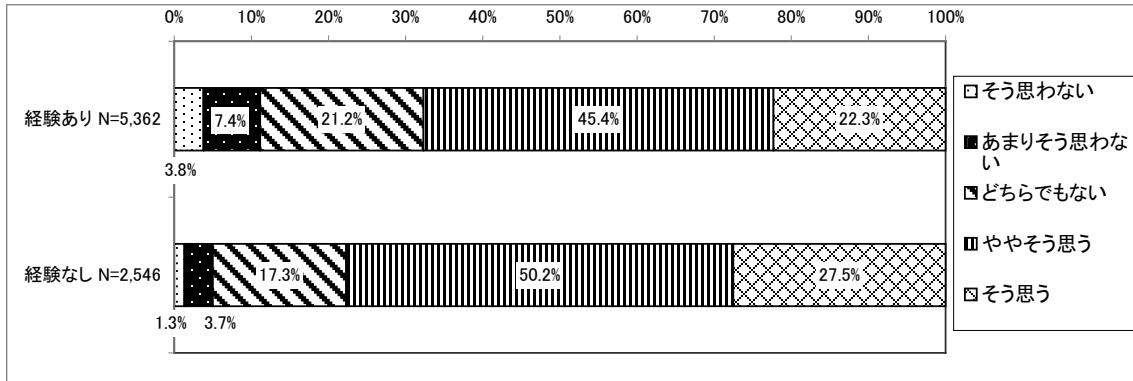


活動に役立つスキルトレーニング・講義・講習

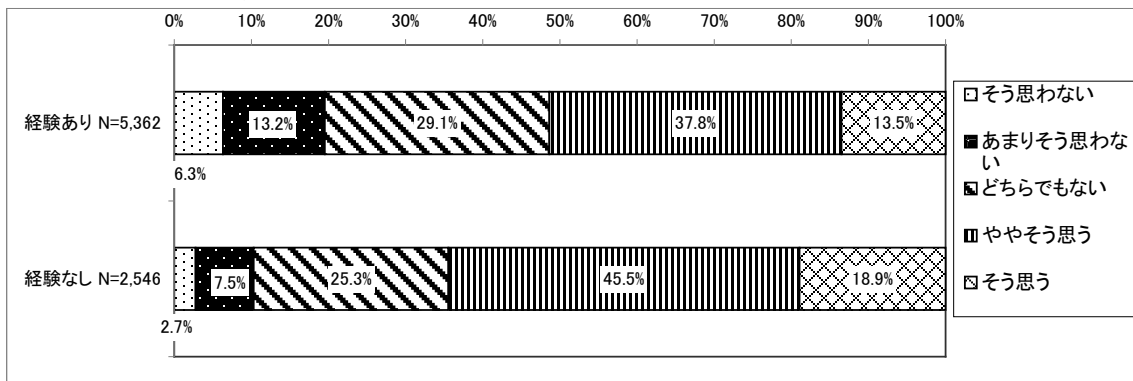


(続き)

実践の機会や場所の提供・紹介

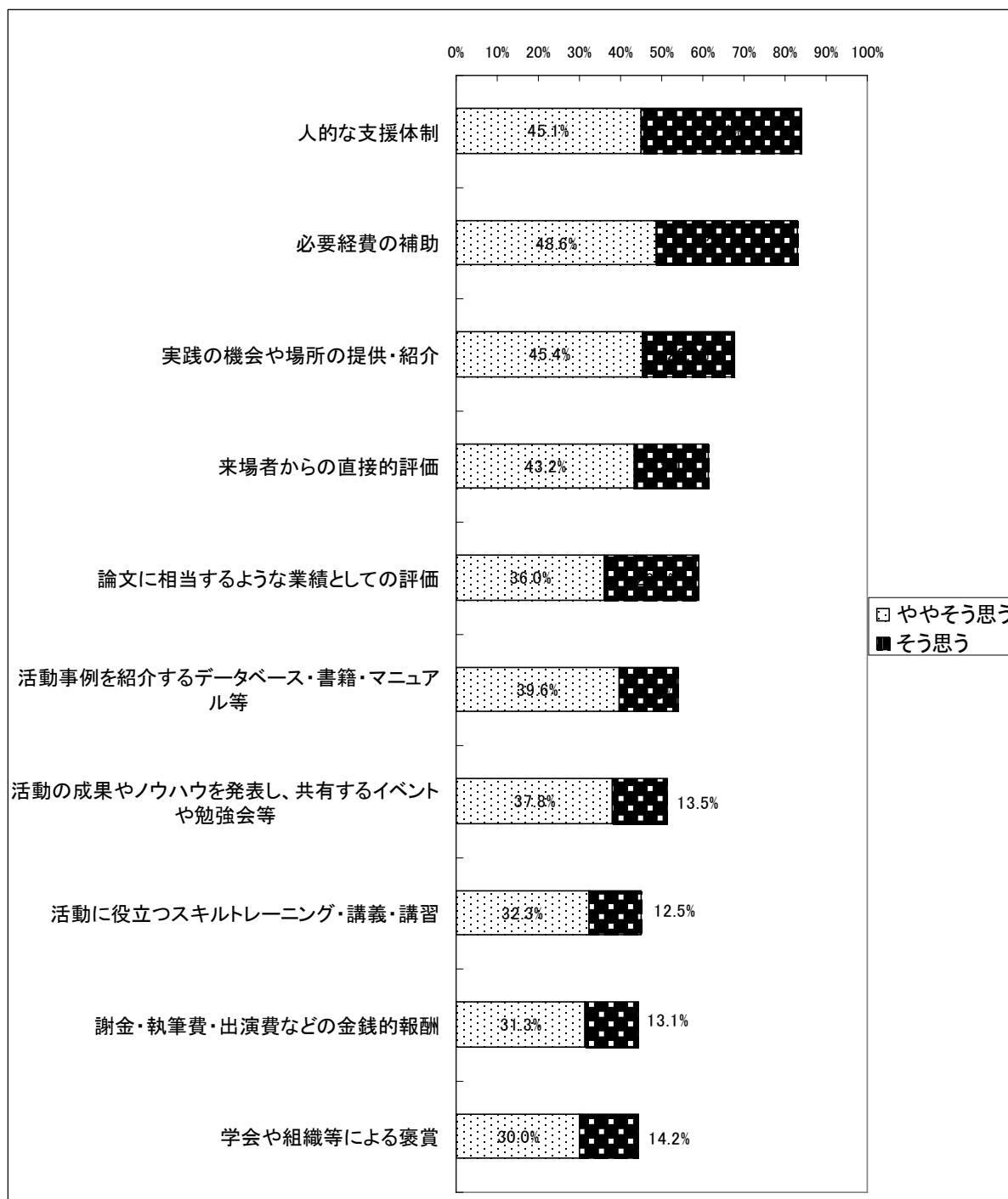


活動の成果やノウハウを発表し、共有するイベントや勉強会等



科学コミュニケーション活動を行っている人が科学コミュニケーションを促進するための支援として回答した項目を回答率が高い順に並べると以下のとおりである。

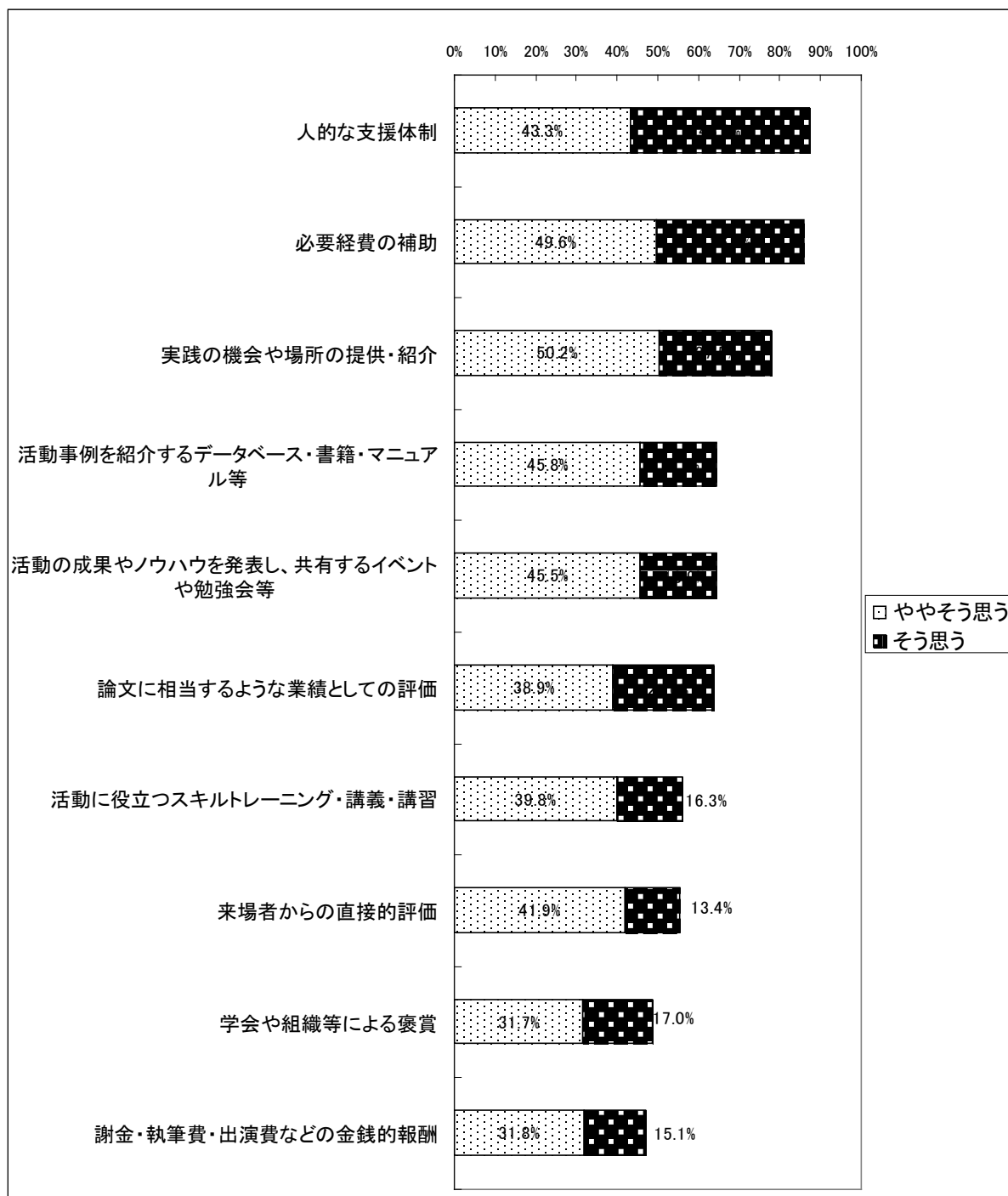
図 18 科学コミュニケーション活動の経験がある人が求める
科学コミュニケーションを促進するための支援



N=5,362

科学コミュニケーション活動を行っていない人が科学コミュニケーションを促進するための支援として回答した項目を回答率が高い順に並べると以下のとおりである。

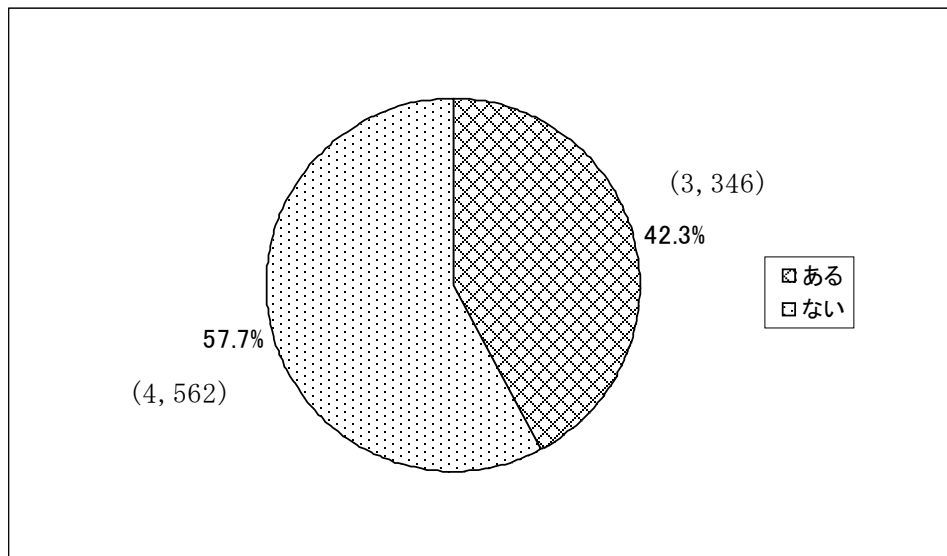
図 19 科学コミュニケーション活動の経験がない人が求める科学コミュニケーションを促進するための支援



N=2, 546

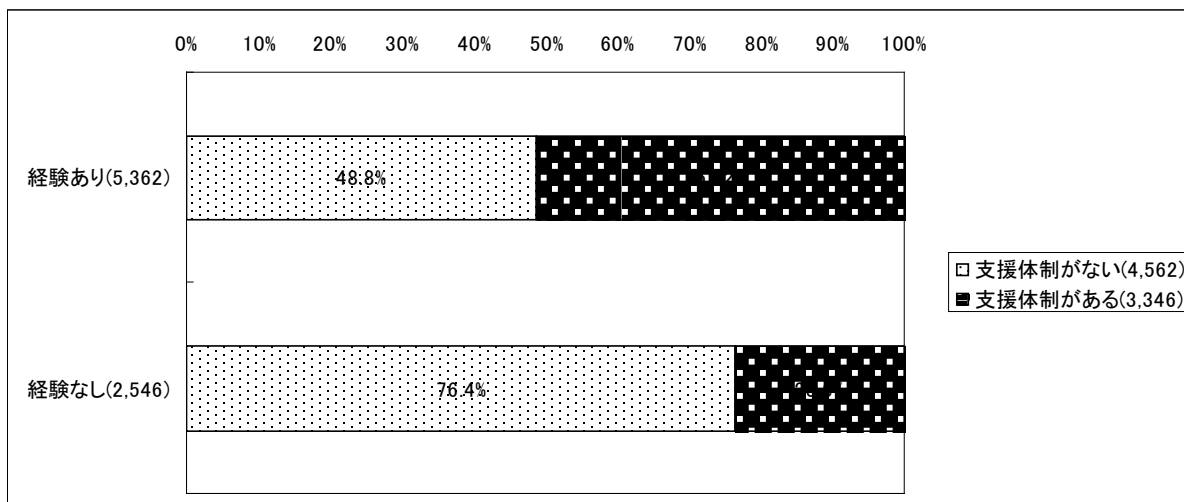
科学コミュニケーション活動を支援する体制（部署または人材）が、所属する組織にあるかないかについては、次のとおりである。

図 20 科学コミュニケーション活動を支援する体制の有無



() : 度数
N=7,908

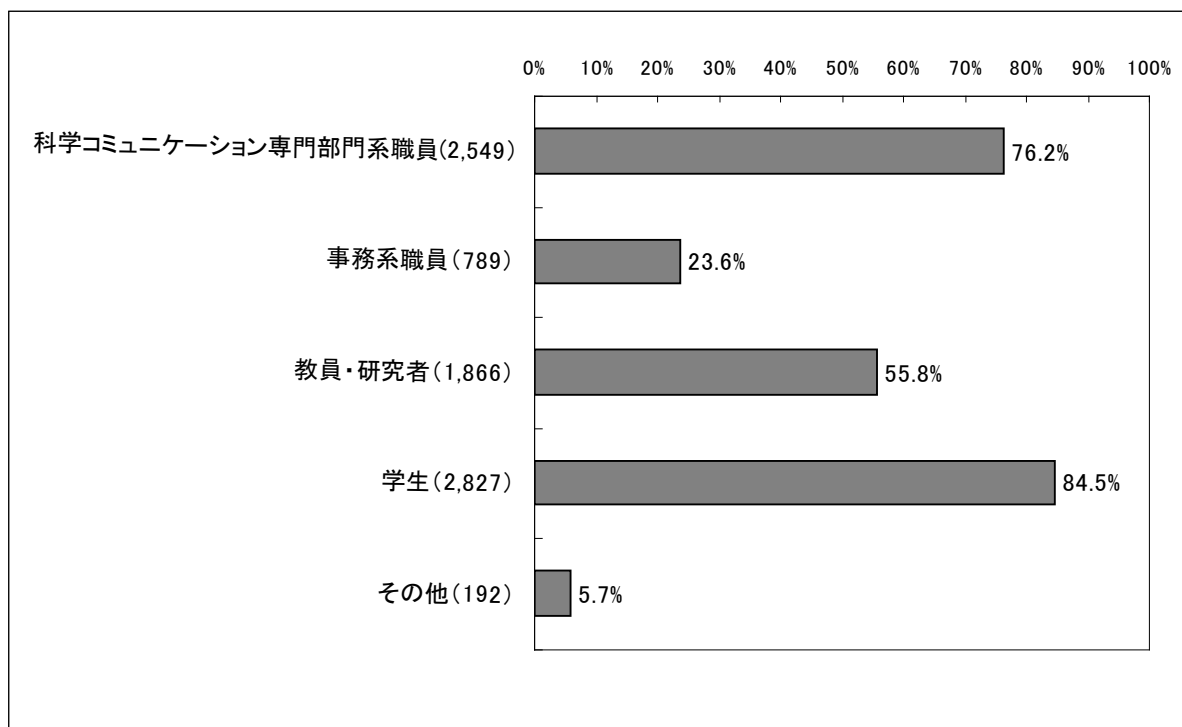
図 21 科学コミュニケーション活動の有無と
科学コミュニケーション活動を支援する体制の有無とのクロス集計結果



() : 度数
N=7,908

科学コミュニケーション活動を支援する体制があると回答した人の、具体的な部署や人材は、次のとおりである。(複数回答)

図 22 具体的な部署や人材 (科学コミュニケーション活動を支援する体制がある場合)

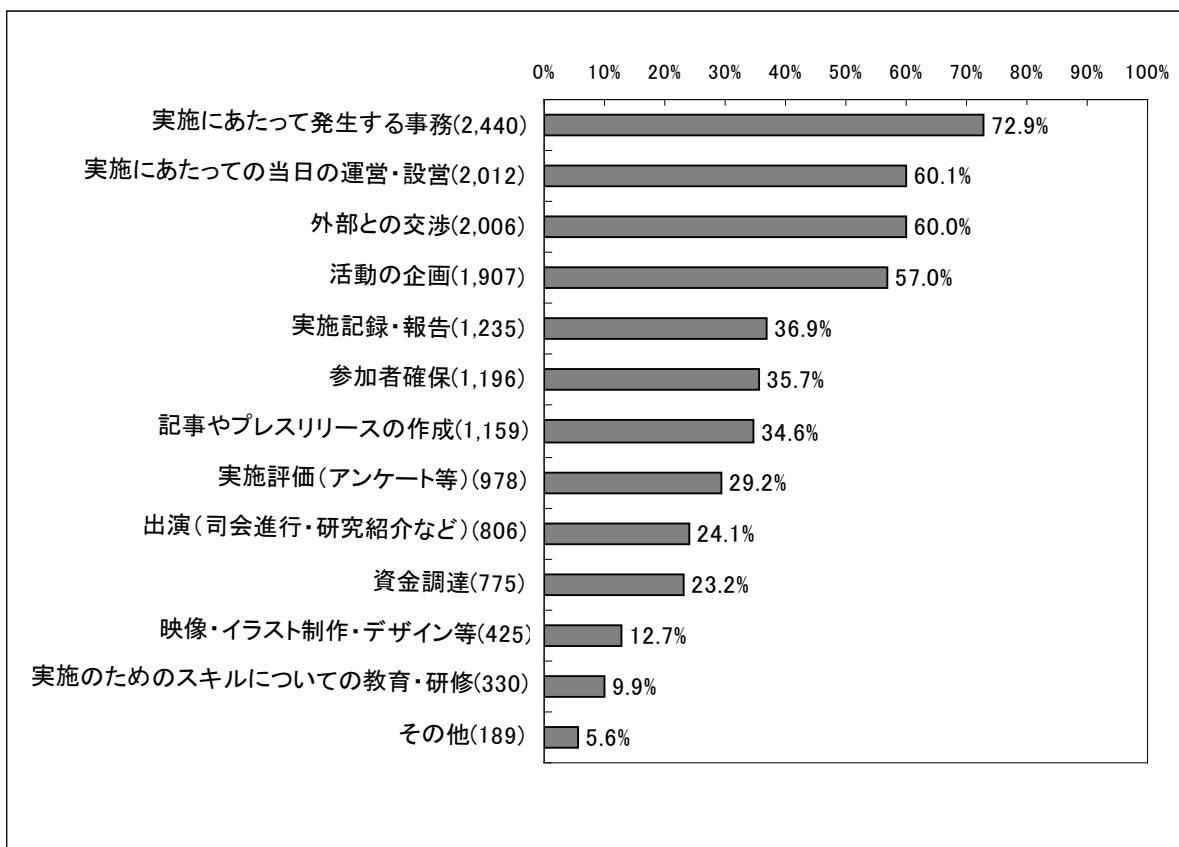


() : 度数

N=3,346

科学コミュニケーション活動を支援する体制の具体的な業務として回答された項目は以下のとおりである。(複数回答)

図 23 科学コミュニケーション活動を支援する体制の具体的な業務
(支援体制がある場合)

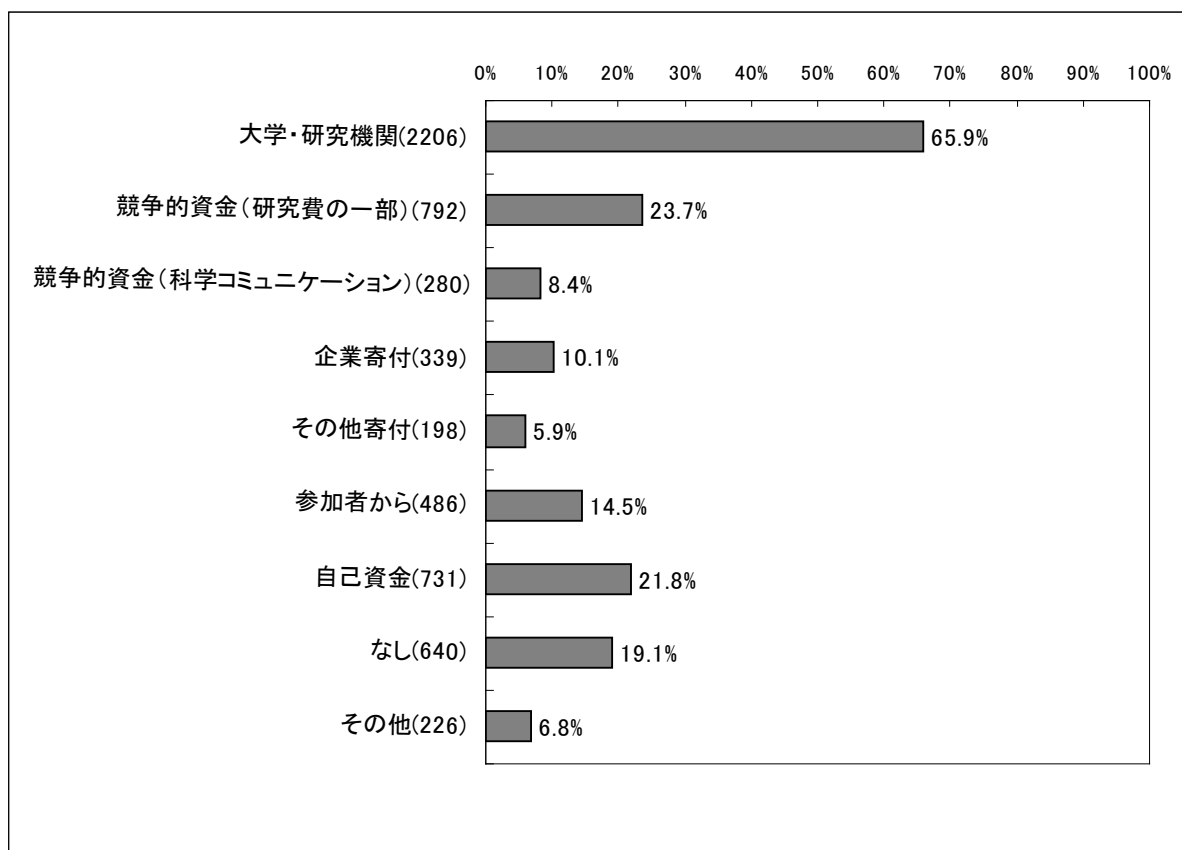


() : 度数

N=3,346

支援体制がある場合、活動の資金源は、次のとおりである。(複数回答)

図 24 活動の資金源 (支援体制がある場合)



() : 度数

N=3,346

科学コミュニケーション活動に関する研修として、受講したい研修は以下のとおりである。

表 7 受講したい研修（科学コミュニケーション活動の有無別）

項目	科学コミュニケーション活動の経験		そう思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	ややそう 思う	そう思う	無回答
小中高等学校での出前授業、講演会	経験あり N=5,362	度数	836	1029	1272	1473	705	47
		パーセント	15.6%	19.2%	23.7%	27.5%	13.1%	.9%
	経験なし N=2,546	度数	228	403	552	907	448	8
		パーセント	9.0%	15.8%	21.7%	35.6%	17.6%	.3%
小中高校生むけの研究指導等	経験あり N=5,362	度数	870	1103	1379	1338	610	62
		パーセント	16.2%	20.6%	25.7%	25.0%	11.4%	1.2%
	経験なし N=2,546	度数	234	439	628	843	384	18
		パーセント	9.2%	17.2%	24.7%	33.1%	15.1%	.7%
一般むけ公開講座・講演会・シンポジウム・セミナー	経験あり N=5,362	度数	721	743	1177	1829	846	46
		パーセント	13.4%	13.9%	22.0%	34.1%	15.8%	.9%
	経験なし N=2,546	度数	138	219	506	1152	523	8
		パーセント	5.4%	8.6%	19.9%	45.2%	20.5%	.3%
サイエンスカフェ、ワークショップ等の参加型対話イベント	経験あり N=5,362	度数	729	827	1421	1644	682	59
		パーセント	13.6%	15.4%	26.5%	30.7%	12.7%	1.1%
	経験なし N=2,546	度数	160	263	674	1026	413	10
		パーセント	6.3%	10.3%	26.5%	40.3%	16.2%	.4%
テレビ・ラジオ等のメディアへの出演	経験あり N=5,362	度数	1082	1207	1681	939	392	61
		パーセント	20.2%	22.5%	31.4%	17.5%	7.3%	1.1%
	経験なし N=2,546	度数	399	600	842	493	206	6
		パーセント	15.7%	23.6%	33.1%	19.4%	8.1%	.2%
テレビ・ラジオ・新聞等のマスメディアへの取材対応・協力	経験あり N=5,362	度数	978	1063	1540	1244	488	49
		パーセント	18.2%	19.8%	28.7%	23.2%	9.1%	.9%
	経験なし N=2,546	度数	321	496	786	677	261	5
		パーセント	12.6%	19.5%	30.9%	26.6%	10.3%	.2%
プレスリリース・記者会見	経験あり N=5,362	度数	975	1068	1645	1141	459	74
		パーセント	18.2%	19.9%	30.7%	21.3%	8.6%	1.4%
	経験なし N=2,546	度数	324	500	871	606	231	14
		パーセント	12.7%	19.6%	34.2%	23.8%	9.1%	.5%

(続き)

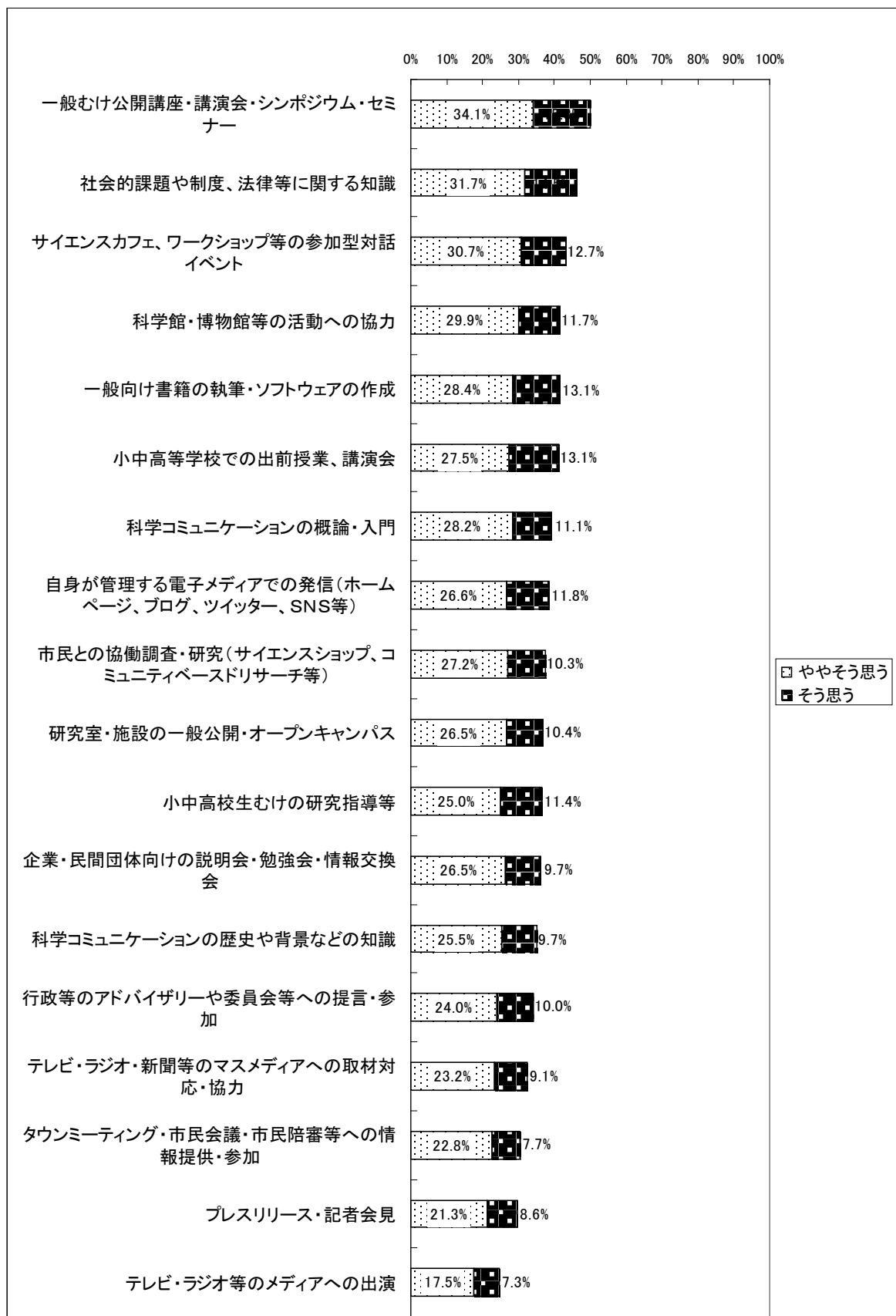
項目	科学コミュニケーション活動の経験		そう思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	ややそう思 う	そう思う	無回答
研究室・施設 の一般公開・オープン キャンパス	経験あり N=5,362	度数	829	903	1589	1423	555	63
		パーセント	15.5%	16.8%	29.6%	26.5%	10.4%	1.2%
	経験なし N=2,546	度数	208	298	722	962	346	10
		パーセント	8.2%	11.7%	28.4%	37.8%	13.6%	.4%
一般向け書 籍の執筆・ソフトウエ アの作成	経験あり N=5,362	度数	779	827	1481	1522	701	52
		パーセント	14.5%	15.4%	27.6%	28.4%	13.1%	1.0%
	経験なし N=2,546	度数	165	304	749	902	415	11
		パーセント	6.5%	11.9%	29.4%	35.4%	16.3%	.4%
自身が管理 する電子メ ディアでの 発信(ホーム ページ、ブ ログ、ツイ ッター、S NS等)	経験あり N=5,362	度数	888	881	1474	1426	634	59
		パーセント	16.6%	16.4%	27.5%	26.6%	11.8%	1.1%
	経験なし N=2,546	度数	267	412	791	748	322	6
		パーセント	10.5%	16.2%	31.1%	29.4%	12.6%	.2%
行政等のア ドバイザー リーや委員 会等への提 言・参加	経験あり N=5,362	度数	892	918	1677	1288	535	52
		パーセント	16.6%	17.1%	31.3%	24.0%	10.0%	1.0%
	経験なし N=2,546	度数	240	374	845	789	290	8
		パーセント	9.4%	14.7%	33.2%	31.0%	11.4%	.3%
タウンミー ティング・ 市民会議・ 市民陪審等 への情報提 供・参加	経験あり N=5,362	度数	885	973	1819	1220	411	54
		パーセント	16.5%	18.1%	33.9%	22.8%	7.7%	1.0%
	経験なし N=2,546	度数	243	387	876	800	229	11
		パーセント	9.5%	15.2%	34.4%	31.4%	9.0%	.4%
企業・民間 団体向けの 説明会・勉 強会・情報 交換会	経験あり N=5,362	度数	821	884	1656	1422	522	57
		パーセント	15.3%	16.5%	30.9%	26.5%	9.7%	1.1%
	経験なし N=2,546	度数	199	284	781	951	319	12
		パーセント	7.8%	11.2%	30.7%	37.4%	12.5%	.5%
科学館・博 物館等の活 動への協力	経験あり N=5,362	度数	722	741	1600	1605	630	64
		パーセント	13.5%	13.8%	29.8%	29.9%	11.7%	1.2%
	経験なし N=2,546	度数	176	242	788	955	373	12
		パーセント	6.9%	9.5%	31.0%	37.5%	14.7%	.5%

(続き)

項目	科学コミュニケーション活動の経験		そう思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	ややそう思 う	そう思う	無回答
市民との協働調査・研究（サイエンスショップ、コミュニティベースドリサーチ等）	経験あり N=5,362	度数	759	833	1693	1458	553	66
		パーセント	14.2%	15.5%	31.6%	27.2%	10.3%	1.2%
	経験なし N=2,546	度数	197	322	828	882	303	14
		パーセント	7.7%	12.6%	32.5%	34.6%	11.9%	.5%
科学コミュニケーションの概論・入門	経験あり N=5,362	度数	798	793	1610	1513	594	54
		パーセント	14.9%	14.8%	30.0%	28.2%	11.1%	1.0%
	経験なし N=2,546	度数	193	314	843	875	310	11
		パーセント	7.6%	12.3%	33.1%	34.4%	12.2%	.4%
科学コミュニケーションの歴史や背景などの知識	経験あり N=5,362	度数	839	886	1677	1365	518	77
		パーセント	15.6%	16.5%	31.3%	25.5%	9.7%	1.4%
	経験なし N=2,546	度数	217	357	897	798	264	13
		パーセント	8.5%	14.0%	35.2%	31.3%	10.4%	.5%
社会的課題や制度、法律等に関する知識	経験あり N=5,362	度数	640	694	1485	1700	780	63
		パーセント	11.9%	12.9%	27.7%	31.7%	14.5%	1.2%
	経験なし N=2,546	度数	165	304	824	902	333	18
		パーセント	6.5%	11.9%	32.4%	35.4%	13.1%	.7%

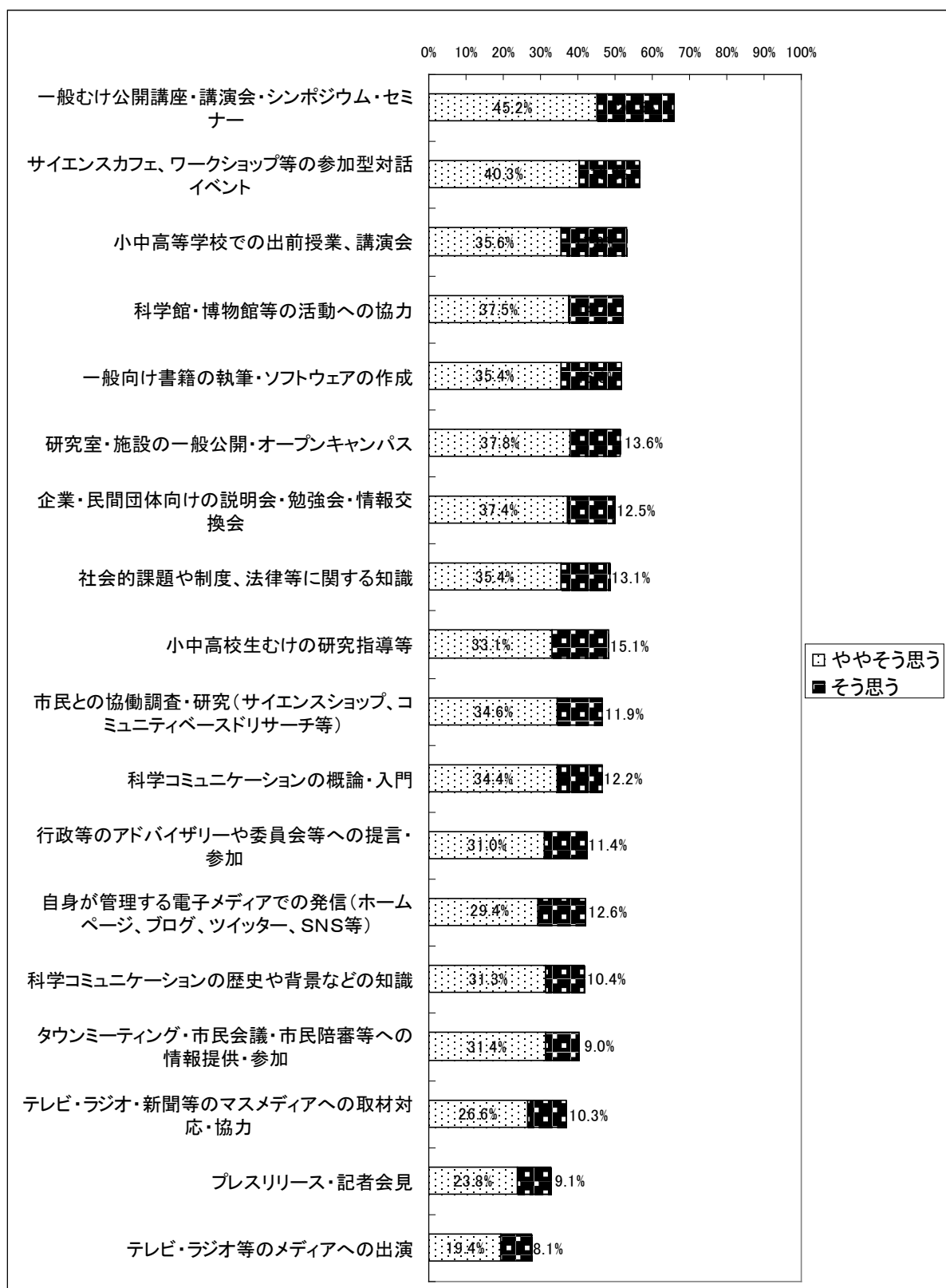
N=7,908

図 25 科学コミュニケーション活動の経験がある人の受講したい研修



N=5,362

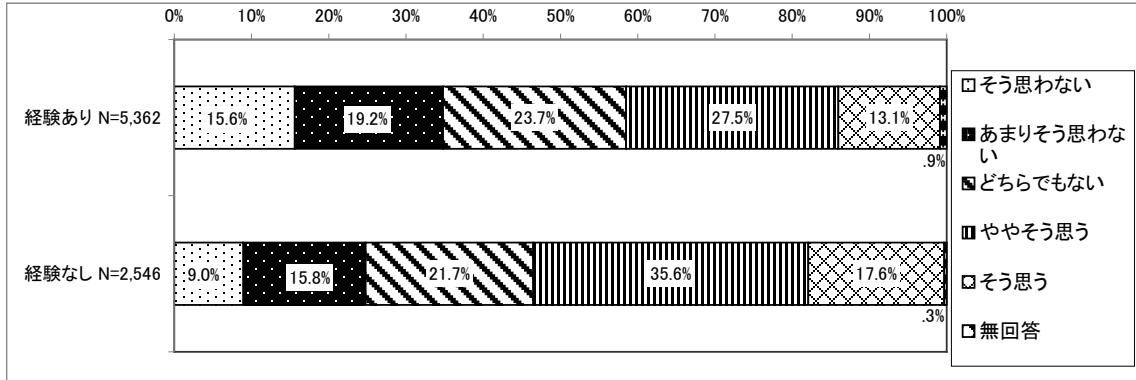
図 26 科学コミュニケーション活動の経験がない人の受講したい研修



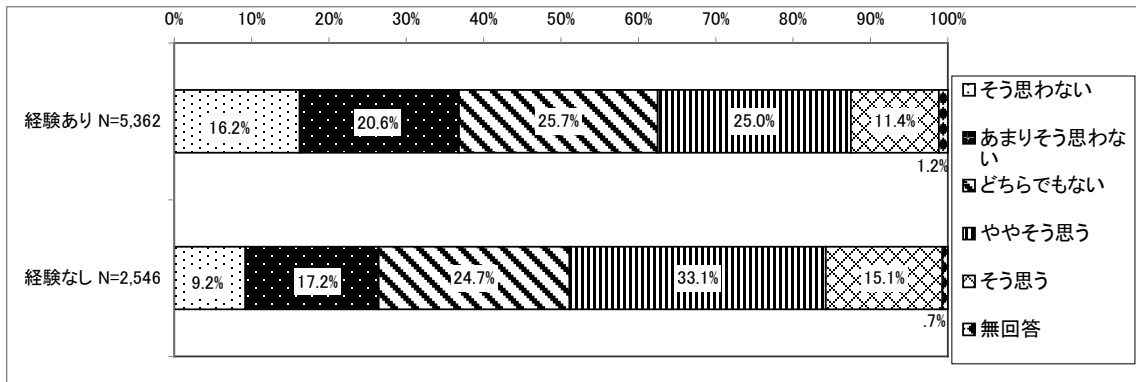
N=2, 546

図 27 受講したい研修（科学コミュニケーション活動の経験別）

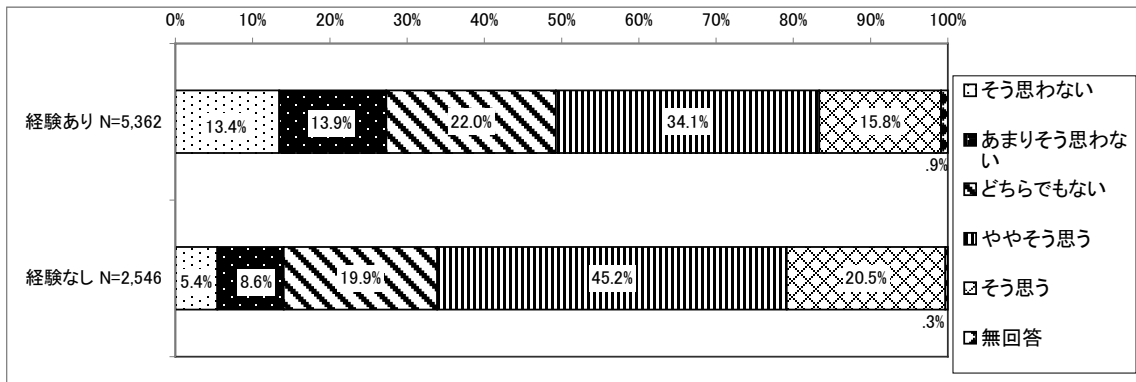
小中高等学校での出前授業、講演会



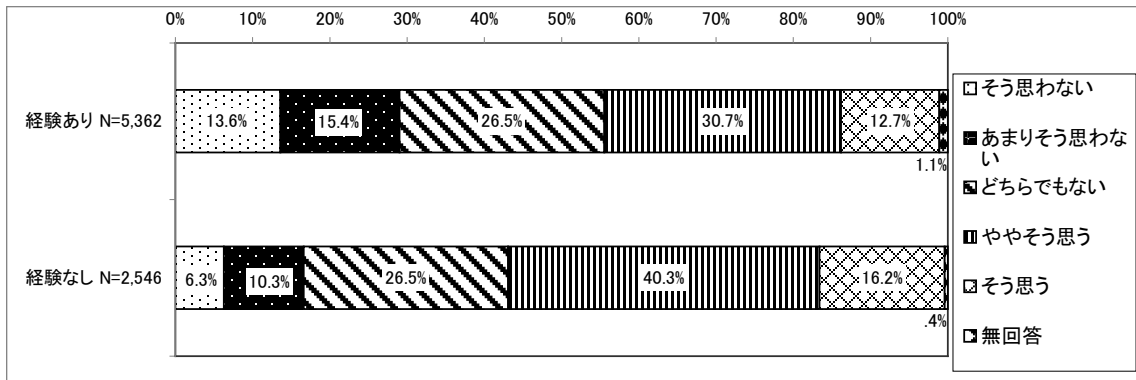
小中高校生むけの研究指導等



一般むけ公開講座・講演会・シンポジウム・セミナー

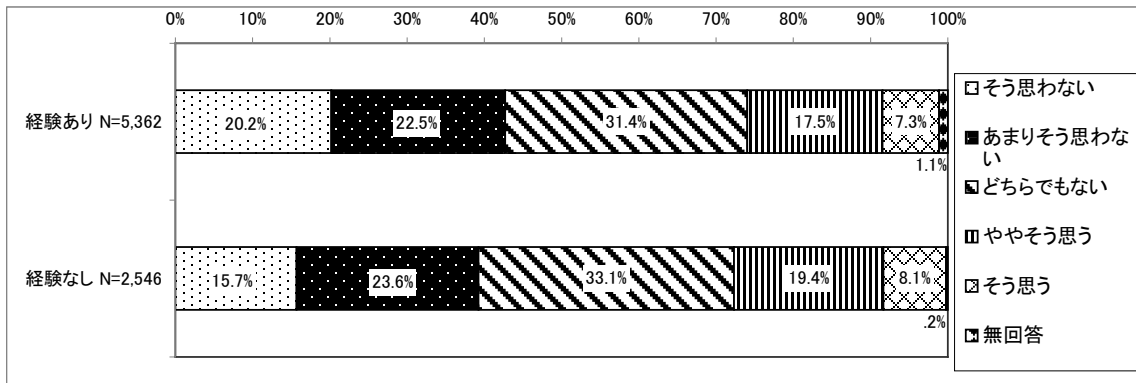


サイエンスカフェ、ワークショップ等の参加型対話イベント

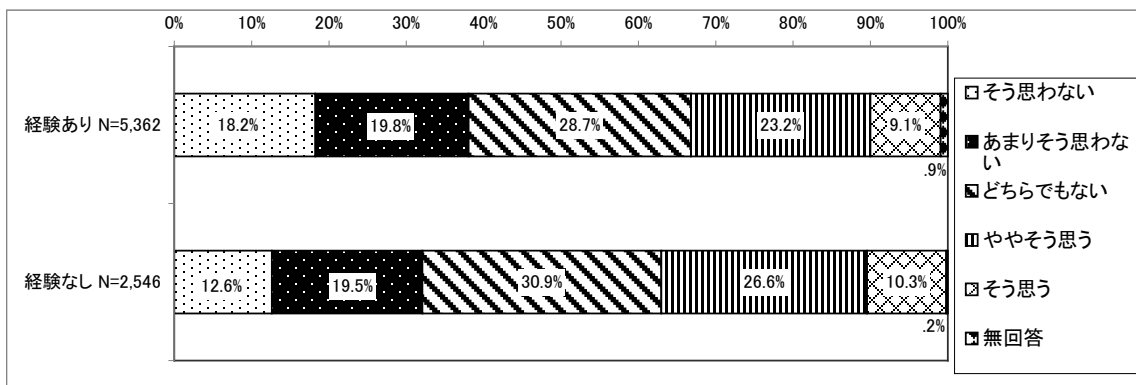


(続き)

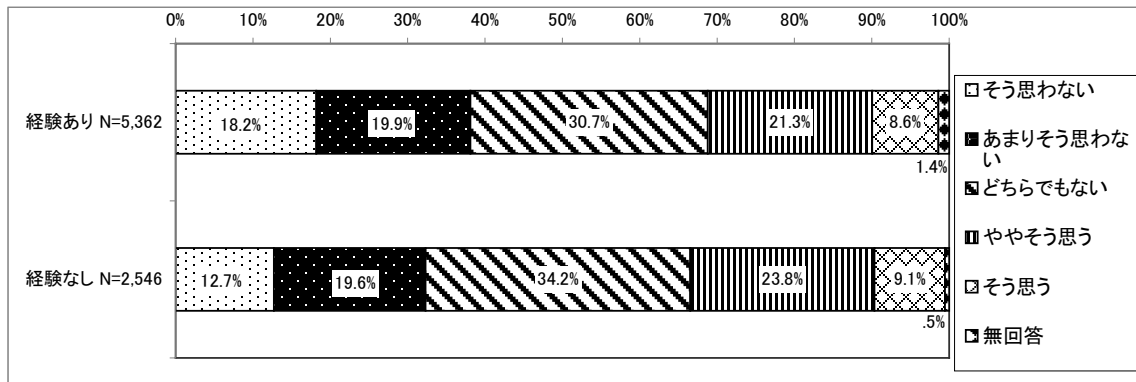
テレビ・ラジオ等のメディアへの出演



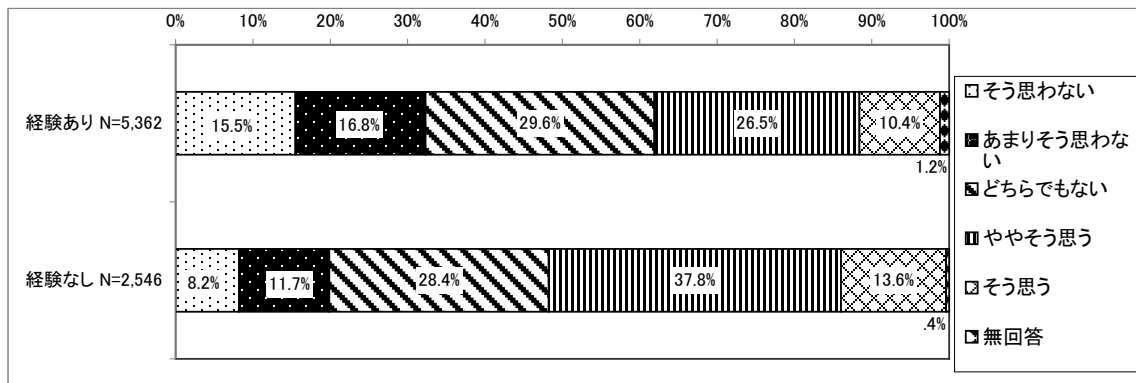
テレビ・ラジオ・新聞等のマスメディアへの取材対応・協力



プレスリリース・記者会見

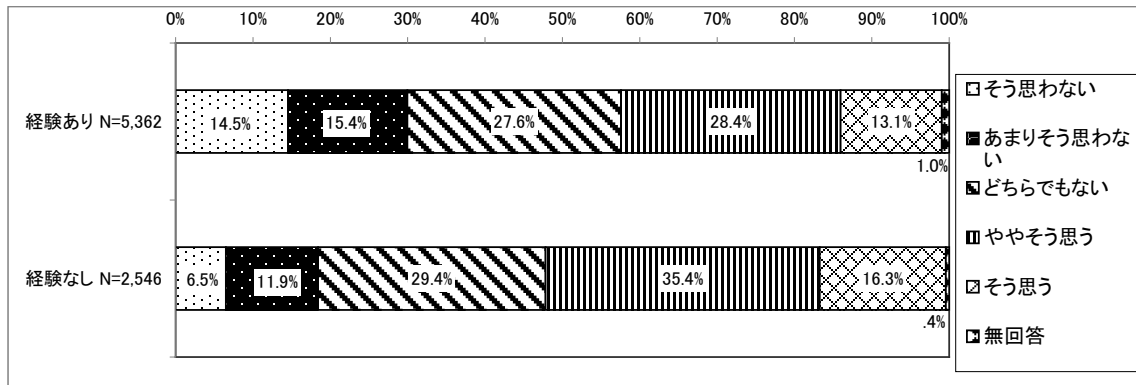


研究室・施設の一般公開・オープンキャンパス

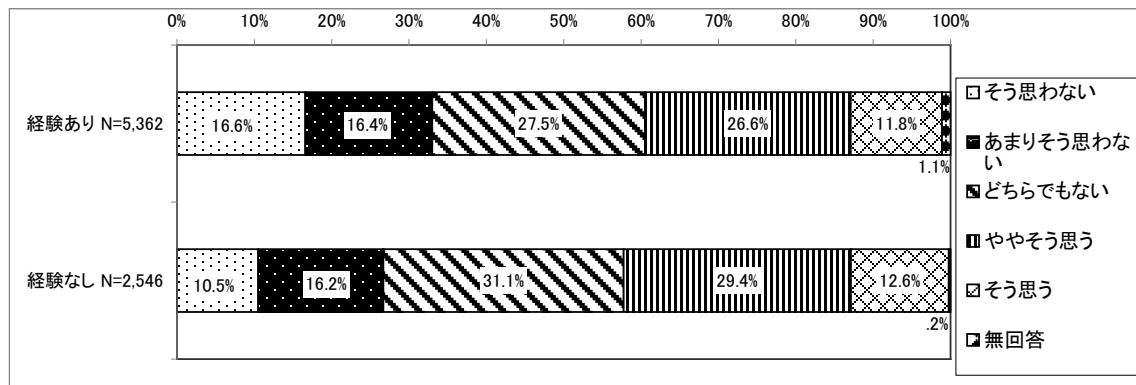


(続き)

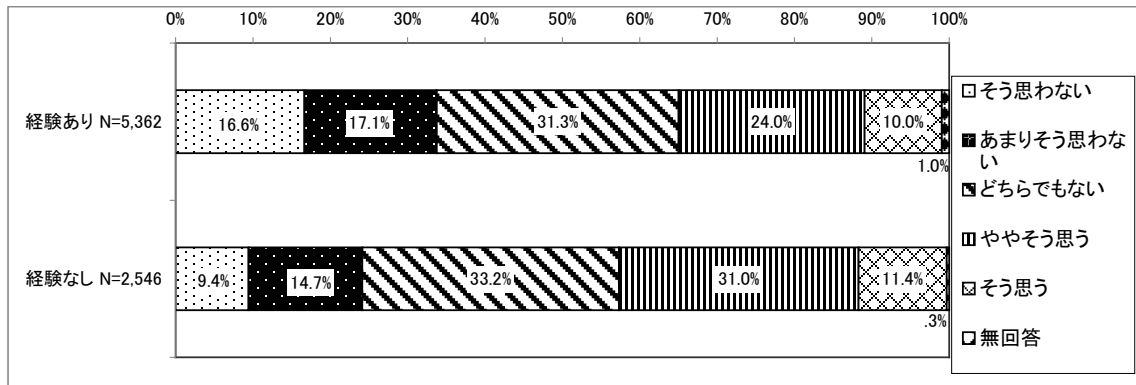
一般向け書籍の執筆・ソフトウェアの作成



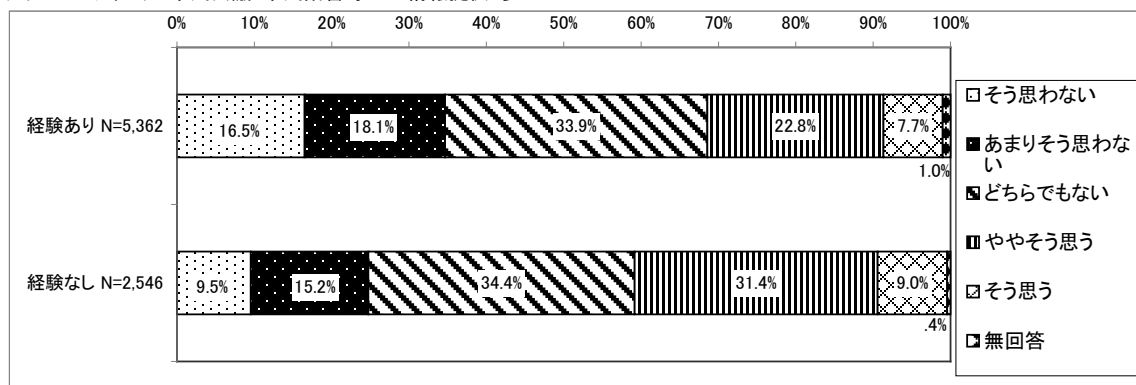
自身が管理する電子メディアでの発信(ホームページ、ブログ、ツイッター、SNS等)



行政等のアドバイザーや委員会等への提言・参加

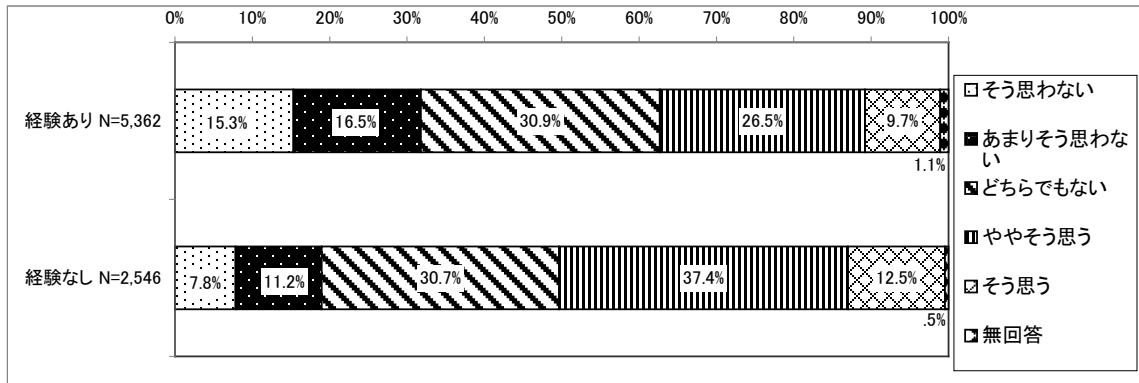


タウンミーティング・市民会議・市民陪審等への情報提供・参加

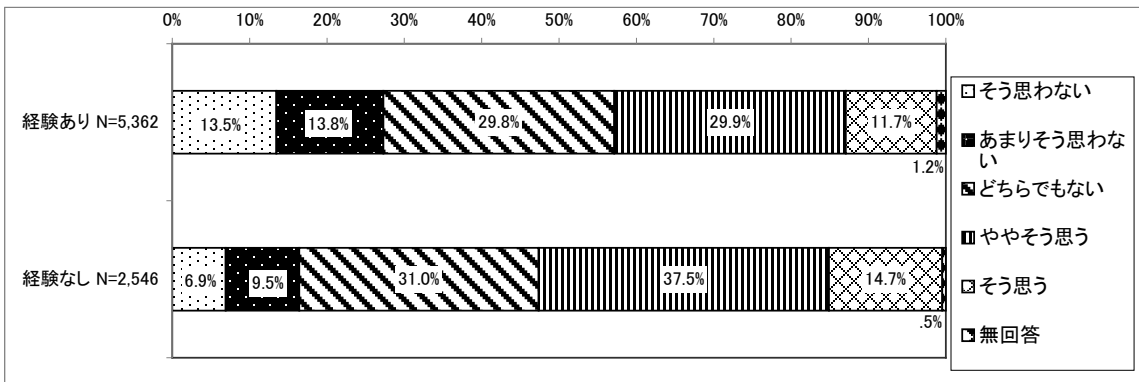


(続き)

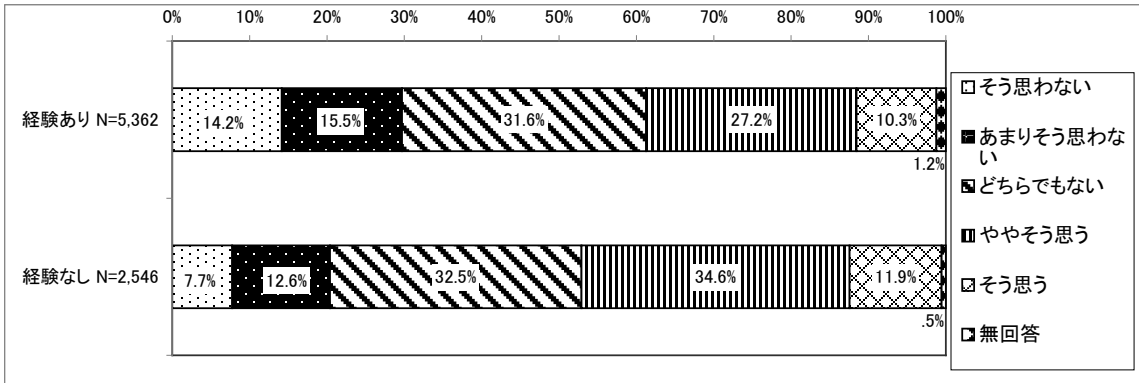
企業・民間団体向けの説明会・勉強会・情報交換会



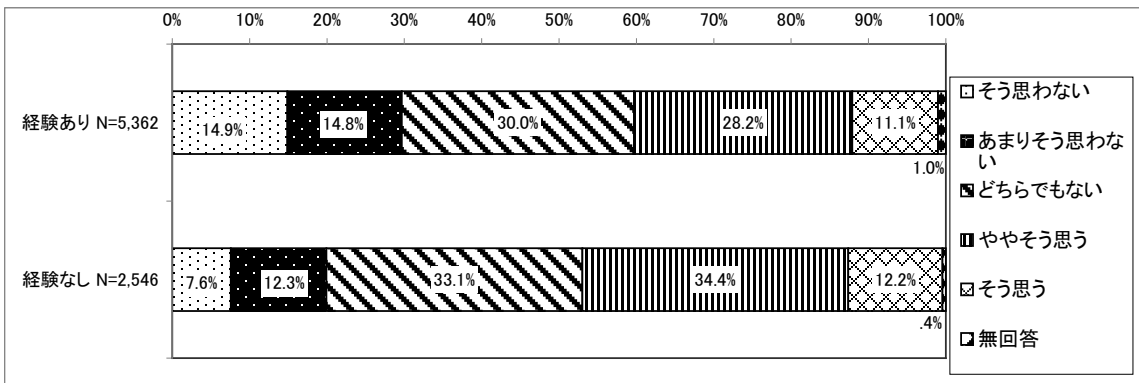
科学館・博物館等の活動への協力



市民との協働調査・研究(サイエンスショップ、コミュニティベースドリサーチ等)

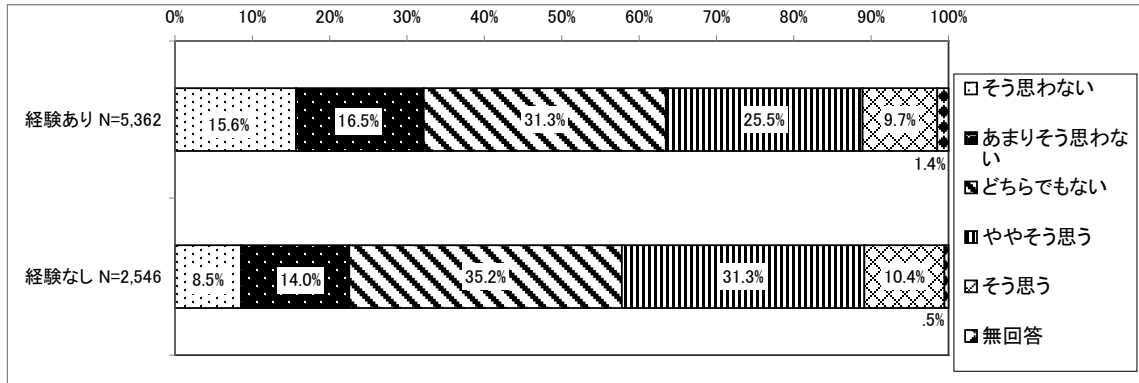


科学コミュニケーションの概論・入門

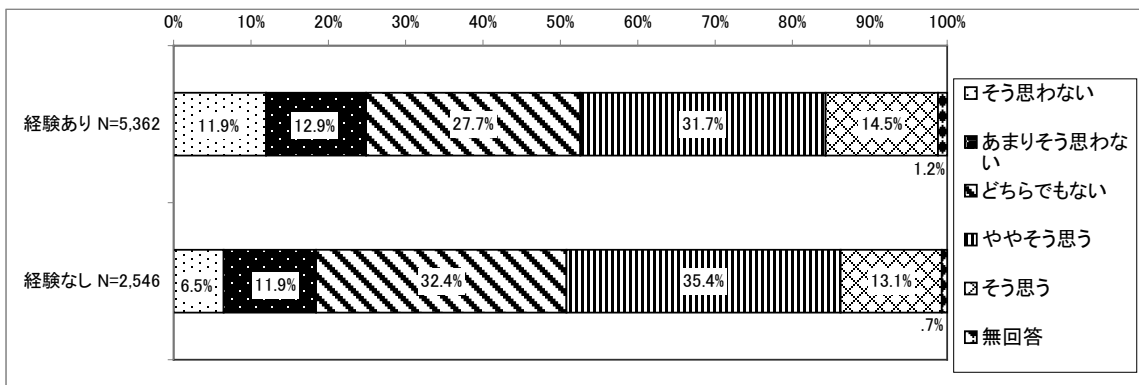


(続き)

科学コミュニケーションの歴史や背景などの知識



社会的課題や制度、法律等に関する知識



2-4 政府方針が研究者による科学コミュニケーションへ与えた影響

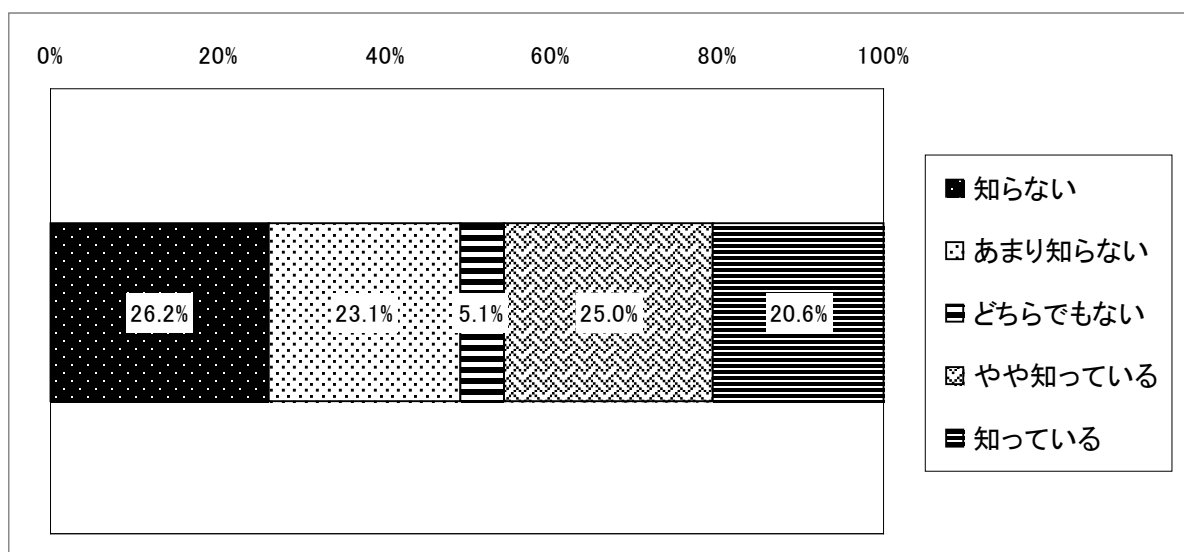
本アンケートでは、科学コミュニケーションを含む科学技術政策とその影響について尋ねた。

第一に、「一定額以上の国の研究資金を得た研究者に対し、研究活動の内容や成果について国民との対話を行う活動を積極的に行うよう求める」(第4期科学技術基本計画)とする政府方針を知っているかどうかについては、以下の回答が示された。

表 8 政府方針を知っているかどうか

	度数	パーセント
知らない	2069	26.2
あまり知らない	1830	23.1
どちらでもない	401	5.1
やや知っている	1979	25.0
知っている	1629	20.6
合計	7908	100.0

図 28 政府方針を知っているかどうか



N=7,908

自分名義で受けている年間研究助成費の総額とのクロスの結果では、総額が多いほど上記の政府方針を知っている。

**表 9 自分名義で受けている年間研究助成費の総額と
政府方針を知っているかどうかのクロス集計結果**

自分名義の年間研究費		知らない	あまり知らない	どちらでもない	やや知っている	知っている	合計
5000万円以上	度数	9	11	1	32	57	110
	パーセント	8.2%	10.0%	0.9%	29.1%	51.8%	100.0%
3000万円以上～5000万円未満	度数	13	18	3	26	62	122
	パーセント	10.7%	14.8%	2.5%	21.3%	50.8%	100.0%
1000万円以上～3000万円未満	度数	71	78	22	168	237	576
	パーセント	12.3%	13.5%	3.8%	29.2%	41.1%	100.0%
300万円以上～1000万円未満	度数	260	285	64	360	310	1279
	パーセント	20.3%	22.3%	5.0%	28.1%	24.2%	100.0%
300万円未満	度数	855	834	173	854	609	3325
	パーセント	25.7%	25.1%	5.2%	25.7%	18.3%	100.0%
自分名義で研究助成を受けていない	度数	861	604	138	539	354	2496
	パーセント	34.5%	24.2%	5.5%	21.6%	14.2%	100.0%

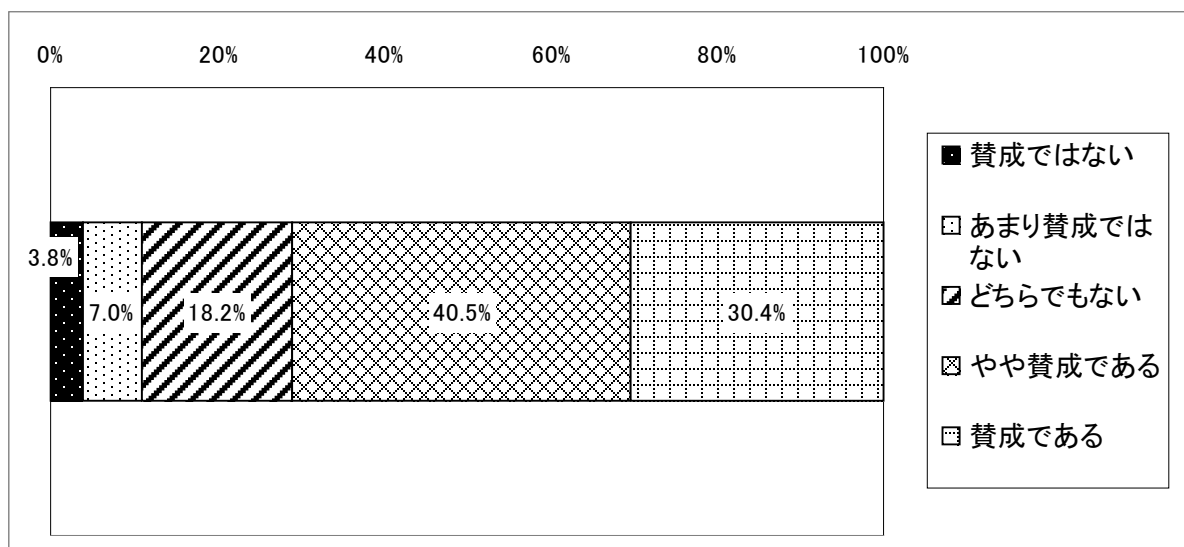
N=7,908

上記の政府方針に賛成かどうかについては、以下の回答が示された。

表 10 政府方針に賛成かどうか

	度数	パーセント
賛成ではない	302	3.8
あまり賛成ではない	556	7.0
どちらでもない	1442	18.2
やや賛成である	3205	40.5
賛成である	2403	30.4
合計	7908	100.0

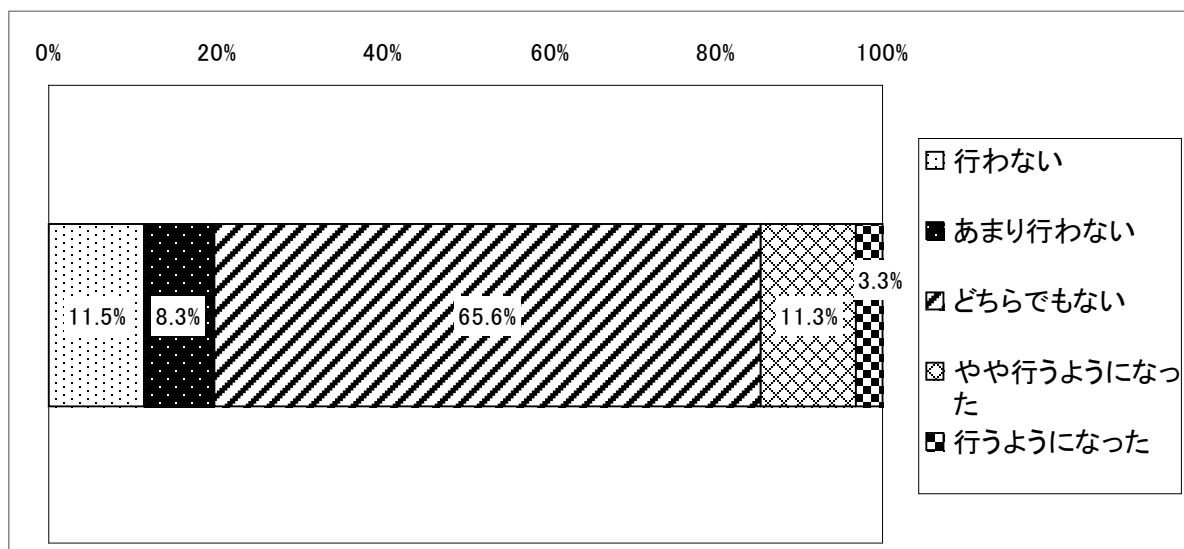
図 29 政府方針に賛成かどうか



N=7,908

上記の政府方針によって科学コミュニケーション活動を行うようになったかどうかについては、以下の回答が示された。

図 30 政府方針によって科学コミュニケーションを行うようになったかどうか



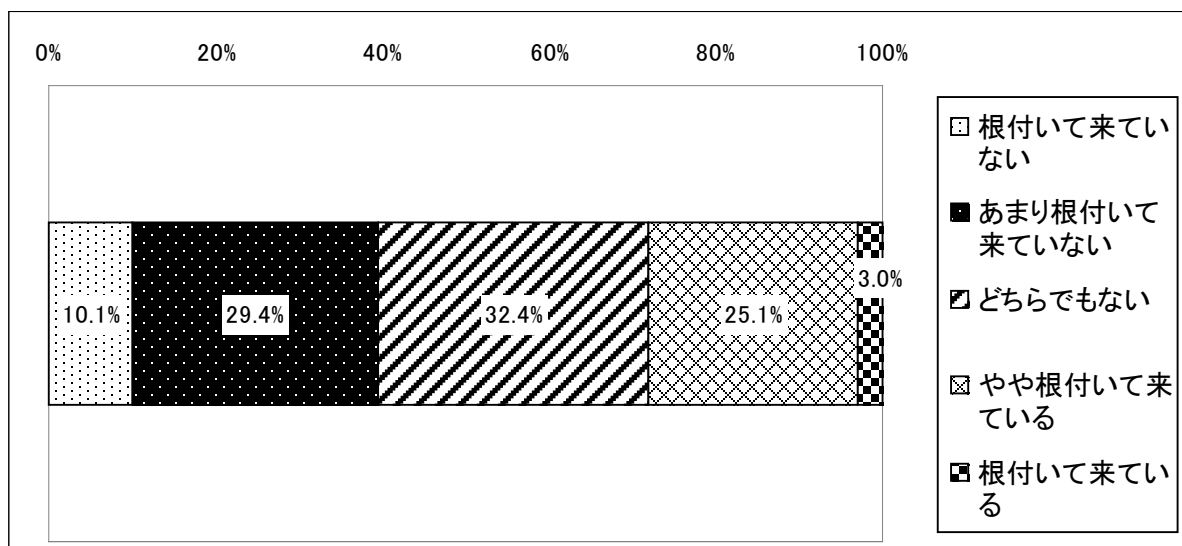
N=7,908

研究者による科学コミュニケーション活動は、研究者の自発的な活動として根付いて来たかどうかについては、以下の回答が示された。

表 11 研究者の自発的な活動として根付いて来たかどうか

	度数	パーセント
根付いて来ていない	802	10.1
あまり根付いて来ていない	2323	29.4
どちらでもない	2560	32.4
やや根付いて来ている	1984	25.1
根付いて来ている	239	3.0
合計	7908	100.0

図 31 研究者の自発的な活動として根付いて来たかどうか



N=7,908

図表一覧

図 1	回答者の性別の割合	11
図 2	年齢別割合	11
図 3	所属する組織（複数回答）	12
図 4	雇用の形態（複数回答）	12
図 5	職位	13
図 6	専門分野	13
図 7	自分名義の年間助成研究費	14
図 8	科学コミュニケーション活動の経験（回答数 8,964）	15
図 9	科学コミュニケーション活動の経験（有効回答数 7,908）	16
図 10	科学コミュニケーション活動の具体的な活動内容（複数回答）	17
図 11	科学コミュニケーション活動のきっかけ	18
図 12	科学コミュニケーション活動の目的（科学コミュニケーション活動の経験別）	21
図 13	科学コミュニケーション活動を行った結果達成されたこと	26
図 14	科学コミュニケーション活動を行ううえでの障壁（科学コミュニケーション活動有無別）	30
図 15	科学コミュニケーション活動の経験がある人の科学コミュニケーション活動を行ううえでの障壁（ややそう思う、そう思う）	34
図 16	科学コミュニケーション活動の経験がない人の科学コミュニケーション活動を行ううえでの障壁（ややそう思う、そう思う）	35
図 17	科学コミュニケーションを促進するための支援（科学コミュニケーション活動の経験別）	38
図 18	科学コミュニケーション活動の経験がある人が求める科学コミュニケーションを促進するための支援	41
図 19	科学コミュニケーション活動の経験がない人が求める科学コミュニケーションを促進するための支援	42
図 20	科学コミュニケーション活動を支援する体制の有無	43
図 21	科学コミュニケーション活動の有無と科学コミュニケーション活動を支援する体制の有無とのクロス集計結果	43
図 22	具体的な部署や人材（科学コミュニケーション活動を支援する体制がある場合）	44
図 23	科学コミュニケーション活動を支援する体制の具体的な業務（支援体制がある場合）	45
図 24	活動の資金源（支援体制がある場合）	46
図 25	科学コミュニケーション活動の経験がある人の受講したい研修	50

図 26	科学コミュニケーション活動の経験がない人の受講したい研修.....	51
図 27	受講したい研修（科学コミュニケーション活動の経験別）.....	52
図 28	政府方針を知っているかどうか.....	57
図 29	政府方針に賛成かどうか.....	59
図 30	政府方針によって科学コミュニケーションを行うようになったかどうか.....	59
図 31	研究者の自発的な活動として根付いて来たかどうか.....	60
表 1	自分名義の年間研究助成費別の科学コミュニケーション活動の経験.....	16
表 2	科学コミュニケーション活動のきっかけ.....	17
表 3	科学コミュニケーション活動の目的（科学コミュニケーション活動の経験別）..	19
表 4	科学コミュニケーション活動を行った結果達成されたこと.....	25
表 5	科学コミュニケーション活動を行ううえでの障壁.....	28
表 6	科学コミュニケーションを促進するための支援（科学コミュニケーション活動の経験別）.....	36
表 7	受講したい研修（科学コミュニケーション活動の有無別）.....	47
表 8	政府方針を知っているかどうか.....	57
表 9	自分名義で受けている年間研究助成費の総額と政府方針を知っているかどうかのクロス集計結果.....	58
表 10	政府方針に賛成かどうか.....	58
表 11	研究者の自発的な活動として根付いて来たかどうか.....	60

「大学・研究機関等における研究者等の科学コミュニケーションの実践的研究」

研究者による科学コミュニケーション活動に関するアンケート調査報告書

2013年7月

独立行政法人 科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター
〒102-8666 東京都千代田区四番町5番地3
電話：03-5214-7625
F A X：03-5214-8088
<http://csc.jst.go.jp/>

許可なく複写／複製することを禁じます。引用を行う際は、必ず出典を記載ください。

No part of this publication may be reproduced, copied, transmitted or translated without written permission. Application should be sent to csc@jst.go.jp. Any quotations must be appropriately acknowledged. ©2013 JST